



Academic Handbook 2019

びわこ成蹊スポーツ大学大学院

スポーツ学研究科(修士課程)
Graduate School of Sport Study

講義概要 (シラバス)

目次

【共通専門科目】

○スポーツ学研究法	15
○特別研究Ⅰ	16
○特別研究Ⅱ	17
○特別研究Ⅲ	18
○特別研究Ⅳ	19
○アカデミックイングリッシュ	20
○インターンシップ	21

【専門科目】

○スポーツ文化論特論	22
○スポーツ文化論演習	23
○発育発達特論	24
○発育発達演習	25
○野外スポーツ特論	26
○野外スポーツ演習	27
○学校スポーツ特論	28
○学校スポーツ演習	29
○臨床スポーツ医学特論	30
○臨床スポーツ医学演習	31
○スポーツマネジメント特論	32
○スポーツマネジメント演習	33
○トレーニング科学特論	34
○トレーニング科学演習	35
○コーチング特論	36
○コーチング演習	37
○スポーツ栄養特論	38
○スポーツ栄養演習	39
○スポーツ心理特論	40
○スポーツ心理演習	41
○スポーツバイオメカニクス特論	42
○スポーツバイオメカニクス演習	43

【授業科目名】スポーツ学研究法

【担当教員名】林綾子・豊田則成・佃文子・高橋佳三・渋谷俊浩・黒澤寛己

【授業概要】

スポーツ学研究に関する基礎的な知識・経験をより発展させ、スポーツ文化の創造とスポーツニーズに応えうる高度職業人を養成することを目指す。

【到達目標】

- 1) 修士論文を作成するための基本的知識を習得し、具体的な研究計画を立てる事が出来る
- 2) 研究目的の設定について熟知する
- 3) その研究目的を達成するための方法について熟知する
- 4) その方法から得られた結果をどのようにまとめるかについて熟知する

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	スポーツ学研究法 ことはじめ (豊田) 研究課題を遂行し、修士論文を作成していくためには、充分な方法論的理解を獲得しておく必要がある。本授業においては、オリエンテーションを含みながら、これからどういった研究方法に取り組んでいくのかについて解説を行う。 学習課題 修士論文構想を想定した上で、参考図書を利用して、研究方法について予めノートにまとめておく。
第2回	スポーツ学研究法Ⅰ (豊田) スポーツ心理学の立場から研究法を学ぶ。特に質的研究について論文を紹介し、特徴を紹介する。 学習課題 スポーツ心理学領域における質的心理学研究法について、関連図書を利用して、その特徴についてノートにまとめておく。
第3回	スポーツ学研究法Ⅰ (豊田) スポーツ心理学の立場から研究法を学ぶ。特に質的研究について論文を紹介し、特徴を紹介する。 学習課題 スポーツ心理学領域における質的心理学研究法について、関連図書を利用して、その特徴についてノートにまとめておく。
第4回	スポーツ学研究法Ⅱ (林) 修士論文作成に向けた研究を進めていくにあたり、研究者として守るべき規範、倫理について説明を行う。 学習課題 入学前として課している研究者倫理に関するテキストを熟読しておく
第5回	スポーツ学研究法Ⅱ (林) 野外教育についての研究論文について解説する。特に、理論研究に着目し、解説を行う。 学習課題 野外教育に関する理論研究を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第6回	スポーツ学研究法Ⅱ (林) 野外教育についての研究論文について解説する。特に、実践研究に着目し、解説を行う。 学習課題 野外教育に関する実践研究を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第7回	スポーツ学研究法Ⅲ (渋谷) 陸上の科学から研究法を学ぶ。走る科学についていくつかの論文から学ぶ。 学習課題 陸上競技の中でも「走る」に寄与する研究論文を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第8回	スポーツ学研究法Ⅲ (渋谷) 陸上の科学から研究法を学ぶ。跳ぶ、投げる科学についていくつかの論文から学ぶ。 学習課題 陸上競技の中でも「跳ぶ」や「投げる」に寄与する研究論文を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第9回	スポーツ学研究法Ⅳ (佃) アスレチックリハビリテーションについての研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 学習課題 アスレチックリハビリテーションに関連する研究論文を熟読し、その特徴についてノートにまとめておく。
第10回	スポーツ学研究法Ⅳ (佃) トレーニング科学についての研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 学習課題 トレーニング科学に関連する研究論文を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第11回	スポーツ学研究法Ⅴ (高橋) スポーツバイオメカニクスに関連する研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 学習課題 スポーツバイオメカニクス研究を予め熟読し、その特徴をノートにまとめておく。
第12回	スポーツ学研究法Ⅴ (高橋) 「動き」に関連する研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。 学習課題 「動き」に関連する研究論文を紹介し、研究方法についての理解を深める。
第13回	スポーツ学研究法Ⅵ 体育指導法についての研究論文について解説する。特に、理論研究に着目し、解説を行う。 学習課題 体育指導法に関する理論研究について、関連論文を予め読み込み、ノートにまとめておく
第14回	スポーツ学研究法Ⅵ 体育指導法についての研究論文について解説する。特に、運動指導法研究に着目し、解説を行う。 学習課題 運動指導法に関する理論研究について、関連論文を予め読み込み、ノートにまとめておく
第15回	スポーツ学研究法 まとめと展望 (豊田) 全体のまとめ。各教員の講義を聴いた後で、スポーツ学を研究する上での研究法を整理する。 学習課題 授業を振り返り、全体的なまとめをノートに記述しておく。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

【成績評価】

注意事項等
本授業は各授業において作成する発表資料(レジュメ)と、そのプレゼンテーション(発表)の内容により評価される。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
発表資料	50% : 発表資料を次の観点から評価する。1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができていないか。
プレゼンテーション	50% : 毎回の授業で、発表資料を活用したプレゼンテーションを行い、これを評価する。1) 発表資料をわかりやすく発表できているか、2) 質疑応答に適切に対応できているか。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

必要に応じて、担当教員が指示する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】

自分の研究テーマについて研究し、修士論文にまとめる第1段階である。そのために指導教員と適切な研究計画を立て、指導を受けながら計画的に先行研究の調査、実験、考察などを実施し、研究課題を決定する。

【到達目標】

専門領域における現状や課題を理解し、個人的興味や現場での問題をもとに研究課題を設定し、研究デザインを作成し、調査を遂行し、結果の分析解釈、研究の発表という一連の学びを経験する。

【授業計画】		【授業外学修の目安の時間】 … 4時間
第1回	修士論文についての理解 -スポーツ分野	
学習課題	そもそも修士論文とはどのような論文であり、如何なる水準が求められるのか、十分に理解する。スポーツ分野全般に関する理解を目指す。 関連文献の検索、整理	
第2回	修士論文についての理解 -スポーツ分野の発表	
学習課題	スポーツ分野全般から興味のある修士論文を読み、まとめ、発表する。修士論文の現状・レベルを理解する。 関連文献を読む	
第3回	修士論文についての理解 -専攻分野	
学習課題	専攻分野における修士論文を検索し、読み込み、理解する。 関連文献より専攻分野における研究の現状と課題をまとめる	
第4回	修士論文についての理解 -専攻分野の発表	
学習課題	専攻分野の修士論文の概観をまとめ、発表し、現状・レベル・課題を理解する。 個人の興味のあるテーマに関する文献検索、読みこみ	
第5回	関連文献の検索	
学習課題	現状や課題を踏まえ、調べるべきテーマや領域を整理し、検索を行う。 個人のテーマについての研究の現状と課題をまとめる	
第6回	関連文献の理解-専攻分野	
学習課題	専攻分野における自身の研究テーマに関わる文献を集め、読み、理解を深める。 個人のテーマに関する、理論や研究について調べる	
第7回	関連文献の理解-他領域	
学習課題	他領域における自身の研究テーマに関わる文献を集め、理解を深める。 他分野の理論や研究と個人のテーマとの接点を整理する	
第8回	先行研究のまとめ	
学習課題	関連文献から、自身の研究テーマに関わる先行研究をまとめる。 理論・研究結果を整理する。	
第9回	先行研究のまとめの発表	
学習課題	先行研究のまとめを発表し、現状や課題を把握し、今後のテーマ設定についてディスカッションする。 現時点でのテーマに関する先行研究をまとめ、自身の課題を明らかにする。	
第10回	研究の方向性の決定	
学習課題	ある程度の方向性を決定し、今後計画・進行について、方向性を定める。 研究計画を立てる。	
第11回	基本理論の理解	
学習課題	自身の研究の中心となる理論を整理し、理解する。 多様な理論を整理し、理解する。	
第12回	基本理論のまとめ	
学習課題	自身の研究の中心となる理論をまとめ、自身の研究を理論を用いてモデル化する。 研究課題・仮説の設定をめざす。	
第13回	研究課題・仮説の設定	
学習課題	研究課題・仮説を設定し、その問題意識や意義についてディスカッションする。 ディスカッションの内容に応じて必要な修正を行う。	
第14回	研究テーマの設定	
学習課題	各自の課題に基づいて研究テーマを設定する。 研究テーマに基づく研究計画を立てる。	
第15回	研究計画立案	
学習課題	研究テーマに基づく計画についてディスカッションを行う。 必要に応じて計画を修正し、実行へと移す。	

【課題や取組に対する評価・振り返り】 ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします	【成績評価】 成績評価の方法・評価の割合 毎時の演習課題に関する プレゼンテーション 研究計画書の評価 70% : 30% : 研究課題の新規性、方法の妥当性、論理性
【使用教科書】 特に指定しない	【参考文献等】 適宜紹介する。
【履修上の注意・備考・メッセージ】 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。	

【授業科目名】特別研究Ⅱ

【担当教員名】大学院担当教員

【授業概要】

特別研究Ⅰで決定された研究課題に対して、担当教員から指導を受けながら、第1次中間報告会に向けて、研究成果をまとめ発表の準備をする。

【到達目標】

特別研究Ⅰでの研究方向性の決定を受けて、各自の研究に対する問題意識を鮮明にし、第1次中間報告会の構想発表を作成し、発表する。

【授業計画】 〔授業外学修の目安の時間〕 … 4時間

第1回	研究の方向性の決定 特別研究Ⅰで立てた研究計画を見直し、ディスカッションし、課題を見つける。
学習課題	課題に応じた修正を行う
第2回	研究計画の評価・修正 これまで取り組んできた計画を評価し、必要に応じた修正を行い、今期の計画を立てる。
学習課題	修正内容に応じた研究計画を検討する
第3回	課題への取り組み 今学期に取り組む課題へ着手する。
学習課題	課題に取り組む
第4回	研究方法の見直し 取り組んでいる研究方法を見直し、必要に応じた修正を行う。
学習課題	見直した方法に応じて取り組み方を検討する
第5回	研究方法の準備 実行する研究方法についての準備（調査用紙の修正・予備調査など）を行う。
学習課題	研究方法の準備に取り組む
第6回	研究方法の準備・実践 調査用紙の修正・予備調査などを実施し、評価を行う。
学習課題	予備調査を行い、結果を評価する
第7回	調査方法の検討 調査用紙の修正・予備調査の分析から、調査方法を検討する。
学習課題	自身の研究を進めるための研究方法を検討する
第8回	研究方法の習熟 研究の方向性に沿った論文を作成するために使用する研究方法を身につけていく。
学習課題	研究方法を学習する
第9回	研究方法の決定 研究の方向性に沿った論文を作成するために使用する研究方法を決定する。
学習課題	研究方法を決定する
第10回	研究方法実施に向けた準備 必要に応じて研究方法の理解や評価のための勉強を行う。
学習課題	実施に向けた研究方法の準備
第11回	研究方法の確認 研究方法の理解の程度、進行状況を確認、評価し課題を検討する。
学習課題	研究方法の学習、必要に応じて予備調査を行う
第12回	調査の準備① 実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。
学習課題	調査用紙の準備
第13回	調査用紙の準備② 実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。必要に応じて先行研究を照らし合わせる。
学習課題	調査結果の検討と修正
第14回	調査用紙の準備③ 実際に用いる調査用紙作成・修正に着手する。必要に応じてディスカッションを行い、評価を繰り返す。
学習課題	研究方法の決定
第15回	調査用紙の準備④ 本調査実施へ向けた準備を完了する。
学習課題	印刷、HP設定など必要な準備を行う。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
演習課題に関する プレゼンテーション 中間報告会の評価	60% : 研究課題の新規性、方法の妥当性、論理性
	40% :

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】 特別研究Ⅲ

【担当教員名】 大学院担当教員

【授業概要】

第1次中間審査で発表した研究課題について、指導を受けながら修士論文完成に向けて、調査、実験、考察を進める。

【到達目標】

専攻するスポーツ分野における現状や課題を理解し、個人的興味や現場での問題を基に研究課題を設定し、研究デザインを作成し、調査を遂行、結果の分析・解釈、研究の発表という一連の学習を行う。

【授業計画】 〔授業外学修の目安の時間〕 … 4時間

第1回	修士論文の構想 各自の修士論文を製作する上での、現在の問題意識を十分に練り、研究方法・研究計画を確立させる。 学習課題 第一回中間報告会でのフィードバックを参考に研究計画の再検討を行うための問題を明らかにする。
第2回	進捗状況の確認 再検討を行った研究計画をもとに進捗状況を確認し、計画を再検討する。 学習課題 最終的な研究計画決定のための課題を明らかにする。
第3回	本調査・実験実施への計画立案 予備調査・実験の結果を参考に本調査・実験実施に向けた計画を作成する。 学習課題 本調査・実験実施に向けた計画の検討
第4回	本調査・実験実施への準備 本調査・実験実施に向けた調査用紙の準備、その他必要な準備を行う。 学習課題 本調査・実験実施に向けた準備を行う
第5回	本調査・実験の実施① 本調査・実験を実施する。 学習課題 調査・実験を確実に遂行させ、データ収集を行う。
第6回	本調査・実験の実施② いくつかの現場から調査・実験を実施する。 学習課題 集めたデータはすぐに整理し、入力を開始する。
第7回	データの入力・分析 本調査・実験のデータを入力・分析を行う。 学習課題 随時指導教員に報告・確認しながら進める。
第8回	分析結果の理解・考察 分析した結果を理解し、考察する。必要に応じて様々な分析を行う。 学習課題 先行研究を照らし合わせ、考察を行う。
第9回	第2次中間審査に向けた準備 ある程度の結果をまとめ、審査会の準備を行う。 学習課題 課題へ取り組む。
第10回	審査会後の確認・修正 審査会にて受けたフィードバックや指摘を参考に、最終的な論文完成を目指し、課題を整理する。 学習課題 副査・他の教員から指導を受け、最終的な完成に向けた課題を整理し、取り組む。
第11回	再分析 必要な追加分析を行い、結果をすべて出す。 学習課題 課題へ取り組む。
第12回	結果の整理 調査・実験結果をすべて出し、整理し、研究課題や課題と照らし合わせる。 学習課題 論文構成を考える。
第13回	論文構成を確定する 論文構成、内容を確定し、確認する。 学習課題 執筆に入るために必要な内容を確認する。
第14回	先行研究・関連文献の整理 執筆に向け、論文に必要な論文を整理する。 学習課題 論文に必要な文献を整理する
第15回	先行研究・関連文献の読み込み 論文本文に用いる文献を読み込み、理解する。 学習課題 論文に必要な文献を読み込む

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合評価の基準
 計画に関する 20% :
 プレゼンテーション
 修士論文計画書 20% :
 中間報告に関する 20% :
 プレゼンテーション
 第2次中間報告会 40% : 内容、方法、構成、展開

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】特別研究Ⅳ

【担当教員名】大学院担当教員

【授業概要】

第3次中間報告会后に修士論文を完成させ、最終審査を受ける。

【到達目標】

第3次中間報告会での発表を経て、最終審査（審査・口頭試問）に合格する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	進捗状況の確認 分析・考察・執筆状況の確認から課題を見つける。 課題を整理し、計画を再検討する。
第2回	第3次中間審査に向けた準備 論文の進捗状況をまとめ、課題を整理し、審査会に向けた発表の準備をする。 主査・副査・他の教員よりフィードバックを受け、課題を見つけ、取り組む。
第3回	論文完成に向けた最終計画立案 審査会でのフィードバックを受け、完成に向けて最終的に課題を整理し、取り組み計画を立てる。 計画通りに進めていく。
第4回	執筆-先行研究 テーマに即した先行研究をまとめ、章の執筆を行う。 随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。
第5回	執筆-結果 研究課題・仮説に即した結果を整理し、執筆を行う。 随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。
第6回	執筆-考察 研究課題・仮説に即した結果を考察し、まとめ、執筆する。 随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。
第7回	執筆-序論 序論の内容を整理し、最終的な研究課題・仮説を内容と一致させ、序論を執筆する。 随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。
第8回	執筆-まとめ 第1段階での論文をまとめ、結論までたどりつく。 随時指導教員に提出、フィードバックを受け、修正を行う。
第9回	論文の修正 指導教員からの指導を受け、必要な修正を行う。 指導教員からの指導を受けながら、執筆、修正を繰り返す
第10回	他の教員、外部関係者からのフィードバック 他の教員・副査、外部関係者などのフィードバックを受け、整合性を高め、論文としての完成を目指す。 関係者の指導を受けながら、執筆、修正を繰り返す。
第11回	論文の完成 最終論文の執筆を終え、完成させる。 論文を完成させる。
第12回	論文の要約 論文の内容を端的にまとめる。また、その内容を英語に翻訳する。 論文を要約し、英語に翻訳する。
第13回	研究の総括 自身の研究を総括（成果の確認等）、整理し、最終審査会・現場へのフィードバックのための資料等を準備する。 自身の研究を総括する。
第14回	審査会に向けた準備 審査会にて発表する準備を行う。 最終審査の準備を行う。
第15回	審査結果を受け、修正を行う 審査での指摘を中心に修正を行い、最終発表会に向けた準備を行う。 最終発表会の準備を行う。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
第3次中間報告会	40% :
最終審査（論文・口頭試問）	60% : 学術性、実践的有用性、妥当性

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】

スポーツ学に関する英語論文講読とプレゼンテーションに取り組むことから、専門分野に関する国際的アプローチへの一歩を踏み出す。

【到達目標】

- 1) 学術領域、特にスポーツ分野にて用いられる英語の語学力を高め、専門分野に関する英語論文を読みとく力をつける。
- 2) 英語論文講読により得られた情報を整理し、レビューすることができるようになる。
- 3) 自身の研究テーマと照らし合わせ、レビュー内容を英語にてプレゼンテーションする力をつける。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	イントロダクション (林綾子) 英語論文購読に必要な基礎的専門用語の確認と、専門分野に関する論文検索方法の確認・検索を行う。 学習課題 自身の領域における専門用語の確認、関連学会・学術雑誌・データベースについて調べ、指導教員と確認し、各自のテーマに沿った論文検索を開始する。
第2回	論文検索開始 (指導教員) 専門分野における海外の学術雑誌、データベースについて調べ、検索を開始する。 学習課題 abstractの理解から、論文検索を実施する。
第3回	論文検索継続 (指導教員) abstractを参考に研究テーマに即した論文をあつめ、参考になる論文を見つける。 学習課題 abstractを読み、参考になる論文を絞り込む。
第4回	論文講読① (指導教員) 選んだ論文を講読する。内容のまとめ方、理解の確認を指導教員と行う。 学習課題 各自論文を読み、まとめる。
第5回	論文講読② (指導教員) さらに論文講読を進め、内容をまとめ、指導教員と確認を行う。 学習課題 各自論文を読みすすめ、まとめる。
第6回	レビューの作成 (指導教員) 読んだ論文をまとめ、レビュー作成にとりかかる。 学習課題 必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。
第7回	レビューの完成 (指導教員) レビューを指導教員と確認し、必要に応じて修正を行う。 学習課題 必要に応じてさらに論文を検索し、講読する。
第8回	英語での研究発表について (林綾子) 英語の研究発表についての基礎を確認し、レビューをプレゼンテーションへと発展させる。 学習課題 各自の発表構成を考える。
第9回	英語プレゼンテーション作成① (指導教員) 各自の発表内容の構成を考え、指導教員と確認する。 学習課題 パワーポイントの作成にとりかかる。
第10回	英語プレゼンテーション作成② (指導教員) パワーポイントを作成し、指導教員と確認する。 学習課題 パワーポイントの修正を行う。
第11回	英語プレゼンテーションの練習① (指導教員) 完成したパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う原稿を作成する。 学習課題 各自原稿作成に取り組む。
第12回	英語プレゼンテーションの練習② (指導教員) 原稿とパワーポイントを用い、プレゼンテーションの練習を行う。 学習課題 各自必要に応じて修正を行い、発表練習を行う。
第13回	英語プレゼンテーションの実施① (林綾子・指導教員) 自分のテーマに関する論文購読より作成したレビューについて英語でプレゼンテーションを行う。お互いのプレゼンテーションの評価を行う。また、教員からのフィードバックを受ける。 学習課題 フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。
第14回	英語プレゼンテーションの実施② (林綾子・指導教員) 自分のテーマに関する論文購読より作成したレビューについて英語でプレゼンテーションを行う。お互いのプレゼンテーションの評価を行う。また、教員からのフィードバックを受ける。 学習課題 フィードバックを受け、各自の課題を明確に理解する。
第15回	まとめ (林綾子) 全体をふりかえり、まとめ、今後の研究活動にどのようにつなげていくか考える。 学習課題 修士論文製作・研究活動に積極的に取り組んでいけるよう課題を明確にする。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・各自の取り組みに対し、授業担当者・指導教員にて随時フィードバックを行います。

【成績評価】

- 注意事項等
・レビュー内容 (50点)・プレゼンテーション (50点) により評価を行う。
- | 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---------------|---|
| 論文レビュー | 50% : テーマにそった質の高い論文を検索できているか、内容を捉え、まとめられているか評価する。 |
| プレゼンテーション | 50% : レビュー内容をまとめた英語プレゼンテーションを評価する。 |

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

各自指導教員と確認すること。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

特別研究Ⅰ・Ⅱでの取り組み、修士論文研究に役立つよう、指導教員とよく相談の上進めること。

【授業科目名】 インターンシップ

【担当教員名】 大学院担当教員

【授業概要】

1年前期から2年前期の間にインターンシップを実施する。実践的な問題解決能力を育成するため、担当教員の指導のもと、学外の学校・団体・研究組織等で実践的な経験をつむ。

【到達目標】

大学で今後のキャリアに直結する理論を学習した上で、インターンシップ実習先で活動を実践し理論と実践の融合をはかる。さらに、インターンシップ先で得た課題や成果を自身の研究とキャリア形成に活用する。また、将来の教員・コーチ・アスリート・研究者・公務員・一般企業などを旨す上で、個々の能力と関連した実践的な問題解決能力を育成する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 …4時間

第1回	事前指導① 指導教員と話しながら、教員、プロ選手、指導者、研究者、公務員、医療関係など自分の将来の進路に沿ったインターンシップ先について熟考する。 積極的に様々なインターンシップ先に関する資料を収集する。
第2回	事前指導② インターンシップ先に何度か足を運び、インターンシップ先の状況を把握し、自分の問題意識からそこで取り組む内容を考える。 より幅広い視点を持てるようにインターンシップ先に関する資料整理を行う。
第3回	事前指導③ 指導教員とインターンシップで行う内容について、よく相談する。院生とインターンシップ先の位置づけについてよく考える。何を学び、身につける場とするのか考える。 先輩などからの意見を聞いておく。
第4回	事前指導④ 指導教員と行う内容に応じて、知識や情報など入念な下準備を行う。インターンシップ先で何を行うのかによって、準備に入る。 計画を立てた内容に沿った準備を始める。
第5回	事前指導⑤ 実習先と相談し、必要な準備をおこなう。 詳しい状況を調べ、どのような準備をすればいいのか注意して行う。
第6回	事前指導⑥ 実習先と相談し、準備をおこなう。 何度も、繰り返し先方との確認を行う。先輩からのアドバイスも大切にす。
第7回	事前指導⑦ 実習先と相談し、準備をおこなう。 実習実施に向けた準備を整える。
第8回	実習① 実際の実習を行う。 積極的に実習に取り組む。
第9回	実習② 実際の実習を行う。 計画通りに常に進捗を確認しながら行う。
第10回	実習③ 実際の実習を行う。 先方と常に反省会をする。
第11回	実習④ 実際の実習を行う。 丹念な記録を残しておく。
第12回	実習⑤ 実際の実習を行う。 修士論文に結びつく内容を常に確認する。
第13回	事後指導① 実習で学んだことを整理し、報告会の資料作成を行う。また、指導教員と修士論文につなげて行く準備を行う。 データ等の処理の方法を考える。
第14回	事後指導② 実習で学んだことを整理し、報告会のプレゼンテーション練習を行う。また、指導教員と修士論文につなげて行く準備を行う。 実際の反省をしながら、データ処理を行い、欠落したものはないか確認して行う。
第15回	事後指導③ プレゼンテーションの振り返りの中で実習で学んだことを整理し、指導教員と修士論文につなげて行く準備を行う。 全体を通してまとめていく。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合
事前事後指導・実習を総合的に判断する100% : 評価の基準
を基に総合的に判断する
S : 90点以上
A : 80点以上90点未満
B : 70点以上80点未満
C : 60点以上70点未満
F : 60点未満

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

特になし

【履修上の注意・備考・メッセージ】

将来につながる最も重要な実習であり、熟慮と十分な準備をもって取り組んで欲しい。

【授業概要】

本科目は、スポーツ文化を学ぶための基礎的な理論を理解することを目的とし、スポーツと社会の関係や今後のスポーツの可能性や在り方を展望できる能力を養っていく。具体的には、スポーツ文化をスポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事実の4つの側面から、具体的な例や事実をもとに理解していく。

【到達目標】

- ・スポーツ文化に関する基礎的な理論を理解し、説明することが出来る。
- ・スポーツと社会の関係を多角的に理解し、論じることができる。

【授業計画】

【授業外学修の目安の時間】…4時間

第1回	スポーツ文化の基礎的理解①（スポーツ観、スポーツ規範） スポーツ文化のスポーツ観、スポーツ規範の側面を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第2回	スポーツ文化の基礎的理解②（スポーツ技術・戦術、スポーツの物的事実） スポーツ文化のスポーツ技術・戦術、スポーツの物的事実の側面を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第3回	スポーツ政策の理解 「スポーツ政策とは何か」について、身近なスポーツ政策に関わる事例を通して理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第4回	スポーツにおけるナショナルティーマの理解① 「スポーツにおけるナショナルティーマとは何か」について、歴史的なスポーツ・ナショナルティーマの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第5回	スポーツにおけるナショナルティーマの理解 「スポーツにおけるナショナルティーマとは何か」について、今日のスポーツ・ナショナルティーマの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第6回	スポーツ教育の文化性を理解する 「スポーツ教育とは何か」について、歴史的なスポーツ教育の例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第7回	スポーツ教育の文化性を理解 「スポーツ教育とは何か」について、今日のスポーツ界のスポーツ教育の例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第8回	スポーツ教育の文化性を理解 「スポーツ経済とは何か」について、歴史的なスポーツ経済の具体的な例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第9回	スポーツ教育の文化性を理解 「スポーツ経済とは何か」について、今日のスポーツ界のスポーツ経済の例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第10回	スポーツ・メディアの文化性を理解 「スポーツ・メディアとは何か」について、歴史的なスポーツ・メディアの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第11回	スポーツ・メディアの文化性を理解 「スポーツ・メディアとは何か」について、今日のスポーツ・メディアの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第12回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、歴史的なスポーツにおけるジェンダーの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第13回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解 「スポーツにおけるジェンダーとは何か」について、スポーツにおけるジェンダーの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第14回	スポーツにおけるテクノロジーの文化性を理解 「スポーツにおけるテクノロジーとは何か」について、歴史的なスポーツ・テクノロジーの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の復習と次回指定のテキストをまとめる。
第15回	スポーツにおけるテクノロジーの文化性を理解 「スポーツにおけるテクノロジーとは何か」について、今日のスポーツ・テクノロジーの例を通して理解しながら、文化としてのあり方を理解する。 授業の総復習をし、課題レポートを作成する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	70%	評価の基準
授業内課題および参加度		各課題の成果と議論への参加度を本学のルーブリックに基づき理解度を評価する。
レポート	30%	レポート内容を本学のルーブリックに基づき理解度を評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

必要に応じて指定する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は一方的な講義だけで完結せず、受講生の課題発表と活発な議論を学びを深めるための重要な取り組みとして位置づけている。よって、受講生には、授業への主体的かつ積極的な取り組みを期待する。

【授業科目名】スポーツ文化論演習

【担当教員名】黒須 朱莉

【授業概要】

スポーツの文化的特性を理解した上で、具体的に、スポーツ政策、スポーツナショナリズム、スポーツ教育、スポーツ経済、スポーツメディア、スポーツとジェンダー、スポーツテクノロジーについて、スポーツ観、スポーツ規範、スポーツ技術、スポーツの物的事実の4つの側面から分析できる能力を実践的に養う。

【到達目標】

- ・現在のスポーツに関する現象をスポーツ文化の4つの側面から分析を試み、自らその特性を理解する。
- ・スポーツ文化のよりよい発展について自らの言葉で説明できる。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	スポーツ文化の構造を理解 スポーツ文化の基本的な構造をおさえながら、スポーツ文化について考えている意見を出し合い、自分とスポーツ文化との関係を自覚する。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第2回	スポーツ文化の構造を理解 スポーツ文化の基本的な構造をおさえながら、スポーツ文化について考えている意見を出し合い、自分とスポーツ文化との関係を自覚する。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第3回	スポーツ政策の文化性を理解 政府によるスポーツ政策について事例を調査し、理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第4回	スポーツ政策の文化性を理解 地方レベルのスポーツ政策について事例を調査し、理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第5回	スポーツにおけるナショナルリティーの文化性を理解 スポーツにおけるナショナルリティーにはどんなものがあるか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第6回	スポーツにおけるナショナルリティーの文化性を理解 スポーツにおけるナショナルリティーにはスポーツを行う者に何をもちたするか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第7回	スポーツ教育の文化性を理解 今日、どんなスポーツ教育が行われているか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第8回	スポーツ教育の文化性を理解 スポーツ教育の役割の大きさについて、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第9回	スポーツ経済の文化性を理解 今日どのようなスポーツ経済が注目を集めているのか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第10回	スポーツ経済の文化性を理解 今後スポーツ経済に何が必要か、自分たちで出し合い理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第11回	スポーツ・メディアの文化性を理解 今日どのようなスポーツ・メディアによる活動が特徴的か、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第12回	スポーツ・メディアの文化性を理解 今日のスポーツ・メディアの功罪は何か、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第13回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解 スポーツにおけるジェンダーは、如何に受け止められているのか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第14回	スポーツにおけるジェンダーの文化性を理解 将来、スポーツにおけるジェンダーは如何に受け止められるべきか、具体的な事例を通して理解を深める。 学習課題 テキストの予習と次テーマのスポーツの時事問題を用意してくる。
第15回	総括 15回までの授業内容とディスカッションを振り返り、これからのスポーツ文化の発展についてアイデアと提言を発表する。 学習課題 授業の総括と15回の内容を含めて、課題レポートを作成する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合 100% : 科目独自のルーブリックに基づき課題内容として
授業内課題および課題レポート 100% : 科目独自のルーブリックに基づき課題内容として
レポート内容を評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

必要に応じて指定する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は受講生の課題発表、議論を中心的な取り組みとして位置づけている。よって、受講生には、授業への主体的かつ積極的な取り組みを期待する。

【授業概要】

幼児から高齢者までの発育発達の経過を辿りながら、子どもの形態、運動能力、運動動作など、これまでの研究成果を基盤に議論を行う。発育発達に関する研究論文を読み、その内容を発表する。そのプレゼンテーション内容を基に、発育発達を中心に様々な観点からディスカッションを行い、議論を行っていきます。

【到達目標】

議論を基盤にして、顕著に変化する子どもを対象とした運動実践や教材研究、身体の効果について追求する。あわせて生活様式の利便性や環境の変化により生じた様々な問題を論じていきたい。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4時間

第1回	ガイダンス 授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。 学習課題 次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第2回	子ども（乳幼児）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第3回	子ども（乳幼児）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第4回	子ども（乳幼児）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に乳幼児を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第5回	子ども（小・中学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第6回	子ども（小・中学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第7回	子ども（小・中学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に小・中学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第8回	子ども（高校生・大学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第9回	子ども（高校生・大学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第10回	子ども（高校生・大学生）の発育発達 発育発達に関する基礎的理論（主に高校生・大学生を対象に）を理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第11回	高齢者における身体運動の効果 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第12回	高齢者における身体運動の効果 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第13回	高齢者における身体運動の効果 加齢と老化の観点から、身体運動が心身にもたらす影響について、先行研究や論文などを理解する。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第14回	発育発達の理論（性差について） 発育発達段階における身体特性について、特に男女差を中心に学ぶ。 学習課題 本授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。
第15回	発育発達の理論（性差について） 発育発達段階における身体特性について、特に男女差を中心に学ぶ。 学習課題 全体の内容について十分に理解を深めるよう復習する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準
レポート・発表（毎時間） 100% :

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

特になし

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】 発育発達演習

【担当教員名】 秋武 寛

【授業概要】

幼児から高齢者までの発育発達の経過を辿りながら、運動能力と様々な側面との関連性についてこれまでの研究成果を基に議論を行う。

【到達目標】

議論を基盤として、顕著に変化する幼児・児童を中心に子どもを対象とした運動実践や教材研究、身体の効果について追求する。自然科学論文執筆に必要な、これまでの研究論文の精査、実験計画、実験、データ整理、統計、論文執筆のための基礎的知識と実践力を養うことを目的に展開する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 …4時間

第1回	ガイダンス 授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。 学習課題 本授業の流れを整理し、到達目標を理解する。
第2回	研究的視点の構築 学習課題 修士論文への問題意識を高める。 先行研究を調査する。
第3回	国内外の文献研究 学習課題 先行研究の調査を実施する。 関心のある領域、分野に関する先行研究を調査する。
第4回	国内外の文献研究 学習課題 先行研究の調査を実施する。 関心のある領域、分野に関する先行研究を調査する。
第5回	国内外の文献研究 学習課題 先行研究の調査を実施する。 関心のある領域、分野に関する先行研究を調査する。
第6回	特定の研究課題 学習課題 研究課題に対する問題点を把握する。 先行研究の問題点について整理しておく。
第7回	特定の研究課題 学習課題 研究課題に対する問題点を把握する。 先行研究の問題点について整理しておく。
第8回	特定の研究課題 学習課題 研究課題に対する問題点を把握する。 先行研究の問題点について整理しておく。
第9回	資料の収集 学習課題 実際に行った実験・測定を発表する。 実験方法の整理、測定結果の分析を進めておく。
第10回	資料の収集 学習課題 実際に行った実験・測定を発表する。 実験方法の整理、測定結果の分析を進めておく。
第11回	資料の収集 学習課題 実際に行った実験・測定を発表する。 実験方法の整理、測定結果の分析を進めておく。
第12回	口頭発表及びディスカッション 学習課題 修士論文をまとめるにあたっての口頭発表およびディスカッションを実施する。 口頭発表およびディスカッションができるよう、十分な準備をしておく。
第13回	口頭発表及びディスカッション 学習課題 修士論文をまとめるにあたっての口頭発表およびディスカッションを実施する。 口頭発表およびディスカッションができるよう、十分な準備をしておく。
第14回	口頭発表及びディスカッション 学習課題 修士論文をまとめるにあたっての口頭発表およびディスカッションを実施する。 口頭発表およびディスカッションができるよう、十分な準備をしておく。
第15回	まとめ 学習課題 口頭発表およびディスカッションができるよう、十分な準備をしておく。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
レポート	40% :
実験計画、実験	50% :
ディスカッション	10% :

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

特になし

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】

多様な目的・対象者・自然環境・展開方法にて行われる野外スポーツについて、スポーツや教育のフィールドとしての自然環境との関わり方や、野外教育・冒険教育・環境教育の理論的背景と実践の状況を通して理解する。

【到達目標】

- 1) 多様化するニーズに応じた展開を実践事例や背景となる理論や研究結果から理解する。
- 2) 指導や運営に関する知識、実践の評価や効果測定を実践から学ぶ。
- 3) 自身の専門分野からの野外スポーツ実践や研究へのアプローチを見出す。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ特論導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・野外スポーツ特論の導入として、個人の体験をふりかえることから、野外スポーツ体験を理解し、野外スポーツとその関連概念を理解する。
学習課題	授業の復習と、個人体験をふりかえり、その関連性を理解する。
第2回	スポーツとしての野外スポーツの多様性 ・多様な野外環境を活用した野外スポーツの種類、特性を理解する。 ・野外スポーツの現場での観察学習を実施し、それぞれの領域における専門性から状況を観察・理解し、ふりかえり、シェアリングすることで、現場の捉え方、研究的な視点を理解する。
学習課題	興味のある野外スポーツについて、その特性・展開・研究成果を調べてくる。
第3回	体験学習理論の理解 ・野外スポーツ体験を理解する上で重要な概念である「体験学習」の理論を理解し、具体的に野外スポーツ体験へ応用する。
学習課題	授業の復習と、過去の体験学習についてふりかえり、理論と照らし合わせて理解を深める。
第4回	野外教育基礎概念 ・野外教育の基礎概念と関連概念を理解する。
学習課題	授業の復習と関連文献を読んでくる。
第5回	冒険教育の基礎概念 ・冒険の意義、冒険教育の歴史、冒険教育過程と理論的背景を理解する。
学習課題	関連文献を読んでくる。
第6回	冒険教育の展開 ・冒険教育の多様な対象・目的に応じた展開と可能性について理解する。
学習課題	興味のある事例について調べてくる。
第7回	冒険教育の現状と課題 ・冒険教育に関するグループ小プロジェクトから、現状と課題について理解する。
学習課題	グループにて冒険教育プログラムを企画する。
第8回	アウトドアセラピューティックプログラムの基礎概念 ・アウトドアセラピューティックプログラムの対象者、目的、野外スポーツの活用方法について理解する。
学習課題	関連文献を調べてくる。
第9回	アウトドアセラピューティックプログラムの展開 ・アウトドアセラピューティックプログラムの多様な展開について理解する。
学習課題	興味のあるプログラムについて調べてくる。
第10回	アウトドアセラピューティックプログラムの現状と課題 ・アウトドアセラピューティックプログラムに関する小プロジェクトから、現状と課題について理解する。
学習課題	課題についてまとめたレポートを作成する。
第11回	環境教育の基礎概念 ・環境教育の基礎概念、歴史、目的、方法を理解する。
学習課題	関連文献を読んでくる。
第12回	環境教育の展開 ・環境教育の多様な目的・対象に応じた展開について理解する。
学習課題	各自の興味に基づいたプログラミングを考える。
第13回	環境教育の現状と課題 ・環境教育に関するグループ小プロジェクトから現状と課題について理解する。
学習課題	プロジェクトからの学びをまとめる。
第14回	最終課題 ・これまでの理解をベースに、グループによる最終課題への取り組みを行う。
学習課題	グループ課題へ取り組む。
第15回	まとめ ・最終課題の発表をすることから個人の理解を確認し、全体でのディスカッションにより学びを深める。個人における、そして野外スポーツ分野における今後の課題を理解する。
学習課題	自身の研究分野とのつながりから、個人課題を設定し、関連文献を読み、まとめる。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題への取り組み	30% : トピックに関する課題への理解を評価する。
グループプロジェクト	30% : グループにて実践課題に取り組み、準備・運営・評価までを評価する。
個人プロジェクト	40% : 授業を通じた学びを自身の専門領域・興味と照らし合わせて設定した個人プロジェクトの成果を評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

野外スポーツの基本は、人と自然との直接的な体験からより豊かな人生を目指すものです。多様な展開方法や可能性を理解することが、みなさんのスポーツ人としての幅を広げ、また他の人の豊かな人生の手助けできる手法の獲得となることを期待しています。

【授業科目名】 野外スポーツ演習

【担当教員名】 林 綾子

【授業概要】

野外スポーツに関連する研究成果を、主に教育・心理・健康・レジャーの観点から、国内外の文献を通して理解する。また、指導・実践に必要な専門知識を身に付け、プログラム実施を行うことから実践力を身に付ける。

【到達目標】

- 1) 野外スポーツ関連研究を概観し、現状や課題を理解する。
- 2) 野外スポーツ研究にて用いられている手法に関する知識を深める。
- 3) プログラム実践に必要な知識を身に付け、企画・運営を実施し、実践力を身に付ける。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	授業の目的・課題・方法の理解 野外スポーツ演習導入 ・授業の目指しているもの、学習のための課題、進め方などについて理解する。 ・受講生の研究に関する興味・関心、実践面での経験・興味の把握する。
学習課題	自身の興味や課題を明確にしておく
第2回	関連文献の理解、研究における現状の理解 ・それぞれの研究興味に基づいた関連領域に関する文献の収集・理解する。
学習課題	文献検索、収集、読み込み
第3回	関連文献の理解、研究における課題の理解 ・文献の理解から、それぞれの領域における現状と課題を理解する（個人発表とディスカッション）。
学習課題	課題に沿って、文献の内容をまとめる
第4回	テーマ設定と計画作成 ・理解した現状と課題から、今後の研究テーマの可能性を探る。
学習課題	発表、ディスカッションにてあきらかになった課題を整理する
第5回	野外スポーツプログラムの企画 ・グループにて野外スポーツプログラムを企画する。
学習課題	興味のある対象や内容、目的に関して調べる
第6回	野外スポーツプログラムの準備 ・グループにて野外スポーツプログラムの準備を行う。
学習課題	グループにて企画・実践するプログラムの決定
第7回	野外スポーツプログラムの試行 ・グループにて野外スポーツプログラムの試行を行い、評価し、本番への調整を行う。
学習課題	プログラム実施に必要な学習・準備
第8回	野外スポーツプログラム実践 ・グループにて野外スポーツプログラムの実践を行う。
学習課題	実践をふりかえり、評価を行う
第9回	野外スポーツプログラム実践をふりかえる ・実際に行ったプログラムを評価する。
学習課題	プログラム評価より、課題を明らかにする
第10回	野外スポーツ研究計画 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案する。
学習課題	興味のある野外スポーツ関連文献を調べ、テーマを明確にする
第11回	野外スポーツ研究計画準備 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、準備する。
学習課題	研究計画をたて、必要な準備を行う
第12回	野外スポーツ研究計画実施 ・個人の経験・興味より野外スポーツの研究計画を立案し、実施する。
学習課題	調査を実施する
第13回	野外スポーツ研究計画実施評価 ・研究結果を分析し、結果から考察を行う。
学習課題	調査結果を分析し、結果を考察し、発表の準備を行う
第14回	野外スポーツ研究発表 ・研究結果の発表、ディスカッション、評価を行う。
学習課題	ディスカッションや評価から、研究結果をまとめる
第15回	まとめ ・行った実践や研究をふりかえり、今後の個人における課題を明確にする。
学習課題	今後の研究や実践についての方向性を明らかにし、レポートにまとめる

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	30%	評価の基準
文献検索・先行研究のまとめ	30%	：興味に基づきまとめた先行研究に対して理解を評価する。
グループプロジェクト	30%	：グループにて実施した企画・運営を評価する。
個人プロジェクト	40%	：自身の専門領域に関わる個人プロジェクト実施について評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

「野外教育の理論と実際」(杏林書院)
「冒険教育の理論と実際」(杏林書院)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

大学院レベルとして、確かな理論的理解・知識を反映させた実践力を身につけることを目指します。自身の思いをプログラム化し、安全に効果的に実践し、発展させるための評価・研究の手法も取り入れて総合的な学びを目指しましょう。

【授業概要】

体育科教育学とは、体育科教育の原理を追求し、体育授業の絶えざる改善に役立てようとする学問領域である。本講座では、その中でも体育科教育学における基礎理論に中核において授業を展開する。体育科教育学が専門科学分野として成立してから現在に至るまでの歩みを、諸外国の動向と合わせて学んでいく。具体的には、①体育科のカリキュラム論、②教授・学習指導論、③体育教師教育論、④体育科教育学の研究方法论である。受講生には、これまでの被授業経験や授業実践と基礎理論を往還させながら、専門的な学びを深めてほしい。

【到達目標】

【授業計画】 〔授業外学修の目安の時間〕 ……4時間

第1回	体育科教育学の基本的性格 体育科教育学の成立 体育科教育学の対象と方法
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第2回	学校体育を取り巻く状況 体育科の危機的状況 諸外国の動向
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第3回	体育科のカリキュラム論①(大西) 体育科カリキュラムの位置付けと役割
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第4回	体育科のカリキュラム論②(大西) 体育科カリキュラムの社会的・政治的諸相
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第5回	体育科のカリキュラム論③(大西) 体育科カリキュラムの目標、教科内容、評価
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第6回	教授・学習指導論①(大西) 英語圏にみる学習指導論
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第7回	教授・学習指導論②(大西) 教師行動論(教授技術、相互作用)
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第8回	教授・学習指導論③(黒澤) 学習者論(素朴概念、運動有能感)
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第9回	体育教師教育論①(黒澤) 体育教師像の動向と課題
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第10回	体育教師教育論②(黒澤) 教師の成長過程と支援体制
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第11回	体育教師教育論③(黒澤) 国内外にみる教員養成のスタンダード
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第12回	体育科教育学の研究方法论①(大西) 体育科教育学研究の動向と課題
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第13回	体育科教育学の研究方法论②(黒澤) 体育科教育学研究における量的研究
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第14回	体育科教育学の研究方法论③(黒澤) 体育科教育学研究における質的研究
学習課題	授業の復習と次回のキーワードについて予習する。
第15回	総括 学校体育のこれからを考える
学習課題	授業の復習をする。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準
毎時の課題レポート 100% : 毎時の授業テーマに則した課題レポートの提出を求める。その内容の理解度を評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

高橋健夫ほか編著(2010)新版 体育科教育学入門(大修館書店)
武田清彦ほか編著(1997)体育科教育学の探求 体育授業づくりの基礎理論(大修館書店)
岡出美則ほか編(2015)新版 体育科教育学の現在(創文企画)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

教師だけが、教育に携わるわけではありません。学校体育やスポーツを介して教育について学びましょう。

【授業科目名】 学校スポーツ演習

【担当教員名】 黒澤 寛己・大西 祐司

【授業概要】

本講座では、学校スポーツ教育に関連した論文を閲読した後、自身で研究テーマを設定し、研究計画を立て、データの収集及び分析を行う。得られた結果をもとに、先行研究に照らし合わせて考察を進め、最終的には研究発表や討議形式で成果をまとめる。小中高等学校の教育現場と連携し、実際の体育授業やスポーツ活動を対象として、現場での営みを科学する。受講生はこれまでの体育授業やスポーツ活動で教わる・教える立場を超えて、教育研究者としてそれらを「学ぶ」ことを目指す。

【到達目標】

【授業計画】 (授業外学修の目安の時間) …4時間

第1回	体育科教育学の研究領域の概略 体育科教育の実践のための理論的研究 体育科教育の実践的研究 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第2回	文献調査① 研究興味に基づいた文献を収集し理解する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第3回	文献調査② 文献理解から、現状と課題について整理し発表する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第4回	文献調査③ 発表を踏まえ、不足している情報を収集する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第5回	研究テーマの設定と研究計画の作成 理解した現状と課題から、研究テーマを設定し、研究計画を立てる。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第6回	研究方法の検討 研究テーマに沿った対象、期間、分析方法、倫理的配慮について検討する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第7回	データの収集① 研究計画に沿ったデータを収集する。 学習課題 授業観察記録を基に授業改善の課題をまとめる
第8回	データの収集② 研究計画に沿ったデータを収集する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第9回	データの分析① パソコンを用いてデータを入力し処理する。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第10回	データの分析② 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第11回	考察 得られた結果から、先行研究をもとに考察を行う。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第12回	プレゼンテーション① 発表資料の作り方、発表の仕方について学ぶ。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第13回	プレゼンテーション② 発表資料の作成し、発表練習を行う。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。
第14回	プレゼンテーション③ 研究発表を行った後、受講生同士で討議する。 学習課題 最終的研究課題を発表する準備をする
第15回	総括 これまで学んだことを振り返り、まとめる。 学習課題 授業内容をノートにまとめ、資料を整理する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
研究計画	50% : 先行研究の現状や課題を踏まえ、研究テーマが設定され、適切な研究方法が設定されているか。
研究成果の発表	50% : 収集したデータを正しく分析し、先行研究に照らし合わせて考察し、わかりやすくまとめられているか。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

高橋健夫ほか編著 (2010) 新版 体育科教育学入門 (大修館書店)
 竹田清彦ほか編著 (1997) 体育科教育学の探求—体育授業づくりの基礎理論 (大修館書店)
 岡出美則編著 (2015) 新版 体育科教育学の現在 (創文企画)
 高橋健夫ほか編著 (2003) 体育授業を観察評価する (明和出版)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

教育の営みに興味関心や疑問を持つ人は、是非受講してください。一緒に教育を科学していきましょう。

【授業概要】

本授業では、スポーツ医学のトピックスに必要とされる知識について学ぶ。具体的には、スポーツ外傷・障害の病態・診断・治療・リハビリテーションなど、内科的な人体のメカニズムと異常を来したした場合に起こる疾患、女性アスリートのサポート、競技におけるドーピング検査の実態、薬剤の使用に関する注意などである。また、スポーツ現場におけるメディカルサポートの実態を知り、各競技団体が取り組んでいる医療的サポートや現場で働くメディカルスタッフの役割について学ぶ。

【到達目標】

【授業計画】 [授業外学修の目安の時間] …4時間

第1回	ガイダンスとスポーツ医学の分野で学ぶべき概略 スポーツ医学特論ガイダンスを行い、どのような内容を授業を通して理解しなければいけないかを説明。 学習課題 スポーツ医学全般について情報収集をする
第2回	スポーツ外傷への実践的対応：病態、診断 スポーツ外傷の原因、診断方法を、具体的に実践したり動画を見せたりしながら実践的に学ぶ。 学習課題 授業で学んだスポーツ外傷の内容について、著書などを読んで理解する
第3回	スポーツ外傷への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ外傷の予防方法、治療方法について具体的に挙げて学ぶ。手術やリハビリについては動画を用いながら解説する。 学習課題 授業で学んだ具体的なリハビリテーション方法について復習する
第4回	スポーツ障害への実践的対応：病態、診断 スポーツ障害の原因、診断方法について、動画を用いながら実践的に学ぶ。 学習課題 授業で学んだスポーツ障害の内容については再確認しておく
第5回	スポーツ障害への実践的対応：治療、リハビリテーション スポーツ現場で実際に行われるスポーツ障害の対処方法（予防、治療）について具体的に挙げて学ぶ。手術やリハビリについては動画を用いながら解説する。 学習課題 障害の具体的な予防やリハビリテーション方法について理解を深める
第6回	スポーツ外傷・障害をテーマとしたプレゼンテーション 第25回の間で学んだスポーツ外傷・障害に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。 学習課題 作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する
第7回	競技スポーツにおけるメディカルサポート スポーツイベントにおける医事委員会の活動と救護活動について、具体例を挙げながら学ぶ。また、プロチームなどのトップアスリートのサポートにおいて注意しなければならない点を事例を話しながら解説し、一般のスポーツ選手と様々な点で異なる事情を理解する。 学習課題 メディカルサポートの内容について復習する
第8回	薬・ドーピングについて ドーピングの定義、禁止物質や行為、必要な手続きなどを様々な事例を通して学ぶ。競技種目や状況によって違反となる薬物が異なる事や、最新情報についても学ぶ。日常生活の中で、使用に注意すべき薬の有効性と副作用について解説する。 学習課題 日頃常用する薬の中でドーピング禁止となるものを復習しておく
第9回	スポーツにおける救急事例、血液感染について スポーツにおける救急事例を具体例を紹介しながら、現場での適切な対処方法を学ぶ。各競技団体が持っている具体的な安全対策を紹介することで、傷害予防のための実践方法などについて学ぶ。また血液感染の起こるタイミングや感染症の病態を知ることで、その対策について理解を深める。 学習課題 傷害予防に対する競技団体がやってきた歴史を調べ、血液感染について復習する
第10回	女性アスリートに対するメディカルサポート 男性アスリートとは異なる女性アスリートが抱える医学的な問題に対して、解剖学的な構造と機能を理解することで、病態を深く知ると共に、必要な対応方法を学ぶ。 学習課題 女性アスリートが抱える医学的な問題を理解できるように復習する
第11回	授業内容をテーマにしたプレゼンテーション 第7-10回の間で学んだ授業に関するテーマについてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。 学習課題 作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する
第12回	スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（循環器系、脳神経系） 心臓、血管系の疾患、頭部外傷も含めた神経系の病態を理解し、突然死などの予防の対策、メディカルチェックの実態などを学習する。 学習課題 循環器系、脳神経系の疾患に対する理解を深める
第13回	スポーツにおける内科的疾患に対する注意と対応（人体の恒常性、呼吸器系） 人間がいかなる環境においても活動するために必要な機能である恒常性（ホメオスタシス）について理解する。具体的には体温調節機能、身体を病原体から守るための免疫系について学ぶ。またスポーツ活動で重要とされる酸素摂取、二酸化炭素排出に関わる呼吸器系のメカニズムと、異常をきたした時に起こる疾患について理解を深める。 学習課題 人体の恒常性、呼吸器系のメカニズムを復習する
第14回	スポーツにおける内科系疾患をテーマとしたプレゼンテーション 第12, 13回で学んだ内科系疾患に関するテーマをまとめてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後にその内容についてディスカッションする。 学習課題 作成したプレゼンテーションの形式、内容について検証する
第15回	講義全体のまとめ スポーツにおけるメディカルサポートを円滑に行うためのあらゆる医学的知識について、今までの授業内容を振り返って総括する。 学習課題 今までの講義内容を資料などを見ながら振り返る

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	試験	60%	評価の基準 スポーツ医学に関する知識が十分理解できているかを評価
	授業内課題	20%	授業で学んだことを適切な表現を用いて記載できているかを評価
	授業内でのプレゼンテーションと質疑応答	20%	授業中に学んだ内容に関するテーマについてプレゼンテーションを行い、内容が十分理解できているか、定められた形式に沿って行われているか、質問に対して的確な回答を述べられるかで評価

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】臨床スポーツ医学演習

【担当教員名】小松 猛

【授業概要】

競技スポーツの分野におけるスポーツ医学に関する主要な研究課題を理解し、自ら修士論文に発展可能な研究課題を探索し、特定できるようにする。また、論文を繰り返し読むことで、論文に書かれているメッセージを的確に読み取り、自身の論文作成への足掛かりにする。そして、英語論文も含めたスポーツ医学の専門誌から複数の論文をピックアップして自身の研究内容の方向性を検証し、研究計画をプレゼンテーションすることでさらに具現化していく。

【到達目標】

【授業計画】 (授業外学修の目安の時間) …4時間

第1回	ガイダンスと医学論文の紹介 本講義の内容全体を紹介する。医学論文が掲載されている雑誌とその特徴を紹介。
学習課題	医学論文の特徴と雑誌の傾向について復習する
第2回	研究テーマに従って、先行研究を模索 図書館・インターネットを利用する。医学論文雑誌を検索するためのサイトなどを知り、個人的に検索する幅を広げて様々な情報収集ができるようにする。
学習課題	実際に自分の興味ある論文を検索する
第3回	先行研究の批判的な分析：検討項目の決定 先行研究について、批判的に検討する項目を決める。研究方法や分析方法が正しく行われているかを客観的に判断するポイントを学ぶ。
学習課題	論文を読みながら、問題点をまとめる
第4回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の調査 批判的に検討するために、その領域のあらゆる先行研究を検索し、収集して論文を読む。
学習課題	論文を読んで検討する分野の参考にする
第5回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の決定 批判的に検討する項目にしたがって、分野を決めて先行研究を検討してみる。
学習課題	先行研究を繰り返して読み、客観的に評価するため内容を十分理解する
第6回	先行研究の批判的な分析：検討する分野の評価 先行研究を読んで、内容に批判するような問題はないのかを検討して述べる。
学習課題	先行研究論文の評価をまとめる
第7回	統計処理について学ぶ：統計学的検討の種類と内容 統計処理の基本を教える。使用ソフトとその具体的な使用方法も解説する。
学習課題	統計処理に関する復習をする
第8回	統計処理について学ぶ：適切な統計学的検討の選択 具体的なスポーツにおける数値を使い、統計処理を実施してみる。
学習課題	実際のデータで統計処理を行い、スムーズにできるように実践を繰り返す
第9回	英語論文の模索方法 図書館・インターネットを利用して、英文の研究論文を検索してみる。
学習課題	英語論文の検索を実践する
第10回	英語論文を読む：専門用語の把握 研究に参考となる適当な論文を検索し、読みながら内容を把握する。
学習課題	論文の中にある専門的な表現を、繰り返し読むことで覚える
第11回	英語論文を読む：主旨を読み取る 検索した論文を読みながら内容を把握し、それを簡潔に述べる。
学習課題	授業で不足していた論文内容の理解度を、再確認して更に深める
第12回	英語論文を読む：自分のテーマとの相違 研究に参考となる適当な論文を検索し、読みながら自分のテーマにとって参考になるかを把握する。
学習課題	複数の自分のテーマに近い英語論文を読む
第13回	英語論文を読む：分かり易いプレゼンテーション 読んだ英語論文を的確に分かりやすくプレゼンテーションする。
学習課題	授業内で不十分であった点を改善する
第14回	自分の研究テーマを設定し、関連する文献の収集 指導教官と相談しながら、今まで行ってきた先行研究の検討を踏まえて、論文の新しい知見を意識しながら、研究テーマを決定する。以後、関連した文献を収集する。
学習課題	検索した論文を読んで、それが参考文献になるか判断する
第15回	研究テーマに関連した文献のまとめ 収集した関連文献を整理し、それをプレゼンテーションする。
学習課題	自分のテーマとなる参考文献をまとめて、知識の整理をする

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	50%	レポート課題	評価の基準 与えられた論文の内容を分かりやすく、適切な表現を用いて解説しているかを評価。
	50%	プレゼンテーション	あるテーマについて、適切に検索した論文を紹介し、自分なりの考えを分かりやすくまとめているかを評価。プレゼンテーションに使用したパワーポイントの内容についても評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

必要な際に、随時、プリントし配布する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】
本講義では、スポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとしてみなし、スポーツ産業の市場拡大に向け、スポーツマネジメントの論理と実践を総合的に学習する。

【到達目標】
・実践的視点から捉えたスポーツビジネスマネジメントの現状と今後の方向性を説明することができる。
・スポーツ組織の内部環境・外部環境・ブランドのマネジメントについて理解し、その実践方法を説明することができる。
・スポーツ消費者を対象としたマーケティングについて理解し、その実践方法を説明することができる。

【授業計画】		【授業外学修の目安の時間】
第1回	スポーツマネジメントとは ・ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について理解を深める。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、今後の方向性について復習しておく。	…4時間
第2回	スポーツ産業とは ・少子高齢社会におけるスポーツ産業の個別市場規模(スポーツ実施率・スポーツ人口・延べスポーツ人口・財支出・サービス支出などの派生需要)を題材とした消費構造の変容、時系列上でスポーツ消費行動に影響を与える時代要因・世代要因、について理解を深める。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ産業について復習しておく。	
第3回	スポーツ組織論：計画と組織化 ・スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。(担当：石井) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：計画と組織化について復習しておく。	
第4回	スポーツ組織論：実行と評価 ・スポーツ組織論の中でも、プロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価について、ゴールセッティング理論、マズローの欲求階層説、アダムの公正理論などの有名なマネジメント理論とともに学習する。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ組織論：実行と評価について復習しておく。	
第5回	スポーツファン ・スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化の結果であることが分かっている。ここではスポーツファンの誕生のメカニズムについて学習する。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツファンについて復習しておく。	
第6回	スポーツ関与 ・人々が個人的レベルと社会的レベルの両方においてスポーツに関わり、参加や観戦を通して得られる様々な社会的、心理的、経済的恩恵について議論を展開し、その理解を深める。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ関与について復習しておく。	
第7回	参加型スポーツのマネジメント ・国民の健康への関心が高まる中、ジョギング、トレーニング、フィットネスなどのような従来型のスポーツ参加に加え、市民マラソンやロードバイクのように、観光やアウトドア活動の側面から新しい形の参加型スポーツも台頭してきている。これらの現状と発展の方向性について議論する。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、参加型スポーツのマネジメントについて復習しておく。	
第8回	スポーツマーケティング ・スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングと呼び、その代表的なコンセプトについて学習する。(担当：石井) 配布資料を資料を読み返し、スポーツマーケティングについて復習しておく。	
第9回	スポーツブランドマネジメント ・コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツブランドマネジメントについて復習しておく。	
第10回	スポーツスポンサーシップ ・スポーツアスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。(担当：石井) 配布資料を資料を読み返し、スポーツスポンサーシップについて復習しておく。	
第11回	スポーツビジネスと企業倫理 ・営利的な企業目標に加え、スポーツ文化の発展という公益的な目標によって特徴付けられるスポーツビジネスの倫理的な問題について考えると、環境保全や市場の国際化なども含め、現代社会のスポーツビジネスのあり方について議論する。(担当：石井) 配布資料を資料を読み返し、スポーツビジネスと企業倫理について復習しておく。	
第12回	スポーツ施設マネジメント：これまでの変遷 ・今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテイメント事業、指定管理者制度、ITテクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	
第13回	スポーツ施設マネジメント：第一局面から第二局面へ ・第1局面から第2局面へと発展を遂げた今日のスポーツスタジアムの特徴を、先進的なプロスポーツの事例とともに学ぶ。(担当：山本) 配布資料を資料を読み返し、スポーツ施設マネジメントについて復習しておく。	
第14回	スポーツレガシーのマネジメント ・スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシー(遺産)と呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。(担当：石井) 配布資料を資料を読み返し、スポーツレガシーのマネジメントについて復習しておく。	
第15回	まとめ 本講義で学習したスポーツマネジメント論に関する内容を総合的に復習し、まとめとする。 配布資料を資料を読み返し、学習したスポーツマネジメント論に関する内容を総合的に復習しておく。	

【課題や取組に対する評価・振り返り】 ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします	【成績評価】 成績評価の方法・評価の割合 スポーツ組織論に関するレポート25% : 評価の基準 事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトやプロジェクトメンバーの動機付けと事業の評価に関する総合的な理解を評価する。 スポーツマーケティングに関するレポート 25% : スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため行う、スポーツマーケティング・スポーツブランドマネジメント・スポーツスポンサーシップに関する総合的な理解を評価する。 授業を通じて学習した内容に関する論述試験 50% : 授業を通じて学習した内容に関する総合的な理解を評価する。
【使用教科書】 特に指定しない	【参考文献等】 よくわかるスポーツマーケティング(伸澤真、吉田政幸編著 ミネルヴァ書房)2017 スポーツ産業論・第6版(原田宗彦編著 杏林書院)2015 スポーツマネジメント(原田宗彦・小笠原悦子編著 大修館書店)2008 スポーツマーケティング(原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高著 大修館書店)2008 スポーツファイナンス(武藤泰明著 大修館書店)2008
【履修上の注意・備考・メッセージ】 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。	

【授業科目名】スポーツマネジメント演習

【担当教員名】山本 達三

【授業概要】

スポーツマネジメント研究（組織論、人的資源管理論、マーケティング論、スポンサーシップ、施設イベントマネジメント）の分野において、新しい理論を構築し、その妥当性を検討することのできる研究力を修得する。

【到達目標】

- ・スポーツマネジメントを構成する主要領域の特徴とそれぞれの独自性を理解し説明することができる。
- ・スポーツマネジメント研究の発展に向け、新しい知識を提供できる研究トピックを特定することができる。
- ・研究方法を、研究のデザイン、尺度、データ収集、統計分析を含め総合的に立てることができる。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	スポーツマネジメント研究とは ・スポーツマネジメントが学問的知識体系として設立された歴史的背景を学習するとともに、スポーツマネジメント研究の独自性についても併せて理解を深める。 学習課題 配布資料を読み返し、スポーツマネジメント研究の独自性について復習しておく。
第2回	スポーツマネジメント研究の重要研究課題 ・スポーツマネジメント関連の学会大会や最新の学術論文の研究成果を基に、スポーツマネジメント研究の重要研究課題を特定し、今後の取り組み・方向性について議論する。 学習課題 配布資料を読み返し、スポーツマネジメント研究の重要研究課題について復習しておく。
第3回	研究の種類とデザイン ・スポーツマネジメント研究の種類を、研究のパラダイム（帰納法と演繹法）、研究の目的（記述、探索、確認、予測）、研究の方法（実験的研究と非実験的研究）に基づいて分類し、それぞれの特徴、違い、メリット/デメリットを理解する。 学習課題 配布資料を読み返し、スポーツマネジメントの研究デザインについて復習しておく。
第4回	研究の進め方（1） ・先行研究の問題の特定の仕方理解するとともに、修士論文の第1章に含まれる緒言、疑問、研究の目的、研究の重要性、研究の範囲に関して、それぞれの内容や違いについても学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、研究の進め方について復習しておく。
第5回	研究の進め方（2） ・仮説の設定方法について、演繹的なアプローチに基づき、理論的な視座の組み立て方を、社会科学における理論や先行研究の理論的な発見とともに学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、研究の進め方について復習しておく。
第6回	調査尺度の種類 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度のそれぞれの特徴を理解するとともに、それらの違い、使い分け、使用上の注意点について学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、調査尺度の種類について復習しておく。
第7回	概念の定義と質問項目への変換 ・概念の定義とそれを基にした質問項目への変換について学習し、特に消費者心理を計測する場合の観測変数と潜在変数の関係性について理解を深める。 学習課題 配布資料を読み返し、概念の定義と質問項目について復習しておく。
第8回	信頼性の検討 ・潜在変数を構成する観測変数の一貫性の検討方法を学習するとともに、併せて他の信頼性分析についても理解を深める。 学習課題 配布資料を読み返し、信頼性の検討について復習しておく。
第9回	妥当性の検討 ・妥当性の検討の基本的な考え方を理解するとともに、特に心理的変数を検討する場合に必要な（1）翻訳的妥当性と（2）基準関連妥当性の検定方法について詳しく学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、妥当性の検討について復習しておく。
第10回	仮説の検討 ・科学的な方法で仮説を検証する方法（帰無仮説と対立仮説のロジック）を学ぶとともに、正規分布、信頼区間、有意確率、タイプIエラー、タイプIIエラーについても学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、仮説の検討について復習しておく。
第11回	統計分析（記述統計、t-検定、相関、回帰分析） ・記述統計（度数分布、平均、標準偏差）と基本的な推計統計（t-検定、相関、回帰分析）について学習し、実際に統計分析を実施する。 学習課題 配布資料を読み返し、統計分析（記述統計、t-検定、相関、回帰分析）について復習しておく。
第12回	統計分析（探索的因子分析） ・新しい因子構造の特定と尺度開発を目的とした探索的因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。 学習課題 配布資料を読み返し、統計分析（探索的因子分析）について復習しておく。
第13回	統計分析（確認的因子分析） ・仮説に基づいて構成概念の因子構造を検討する確認的因子分析の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。 学習課題 配布資料を読み返し、統計分析（確認的因子分析）について復習しておく。
第14回	統計分析（構造方程式） ・複数の要因間の関係性を分析することのできる構造方程式の目的、特徴、分析方法、注意点について学習し、実際に統計分析を実施する。 学習課題 配布資料を読み返し、統計分析（構造方程式）について復習しておく。
第15回	考察のまとめ方 ・結果の考察、研究の限界、今後の展望、結論のまとめ方について学習する。 学習課題 配布資料を読み返し、考察のまとめ方について復習しておく。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
先行研究のレビュー論文	40% : スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいたレビュー論文を作成する。
研究仮説の構築	40% : スポーツマネジメント分野の先行研究に基づいた研究仮説の構築を行う。
研究計画の策定	20% : 先行研究、研究仮説に基づいた研究計画の策定を行う。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

吉田政幸（2011）スポーツ消費者行動：先行研究の検討。スポーツマネジメント研究，（3）1，6-21。
よくわかるスポーツマーケティング（2017）仲澤真，吉田政幸他，ミネルヴァ書房：京都

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】

スポーツ生理学とスポーツ医学的なアプローチによるトレーニング科学やスポーツ実践の医学的問題に関する国内・国外の文献を通して理解するとともに、運動やスポーツのメカニズム、技術発達、トレーニング効果、スポーツコンディショニングについての知識を獲得する。
そして、コーチや指導者として、学習者の運動技能のつまづきや問題点を発見し、その改善につながる実践的なトレーニング方法（教授法も含む）など提示できる能力の育成を目指す。

【到達目標】

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 …4時間

第1回	トレーニング科学とコンディショニング (佃) 応用科学領域の学問構成について概説し、コンディショニングとコンディショニングの定義などを学習する。 学習課題 予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う
第2回	コンディショニングの内的要因 (佃) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得① アスリートのコンディショニングで内的要因に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。 学習課題 予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う
第3回	コンディショニングの外的要因 (佃) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得② アスリートのコンディショニングで外的要因に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。 学習課題 予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う
第4回	コンディショニングのその他の要因 (佃) 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得③ アスリートのコンディショニングで環境要因・トレーニング要因に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。 学習課題 予習復習として、国内におけるトレーニング科学とコンディショニングに関する研究の文献検索および知見の収集を行う
第5回	現場の課題とコンディショニング評価の有効性 文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得④ アスリートのコンディショニングでトレーニング計画に関する研究論文や文献を読解し、高度な専門知識を身につける。 学習課題 全体の授業を通して、トレーニング科学分野の理解した内容を発表し、スポーツ現場への有用性について議論する。
第6回	体力測定とトレーニング (山田) トレーニングの原則や体力領域の定義に関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。 学習課題 学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。
第7回	発育発達とトレーニング (山田) 発育発達と体力運動能力テストに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。 学習課題 学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。
第8回	持久力トレーニング (山田) 持久力トレーニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。 学習課題 学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。
第9回	スピード・パワートレーニング (山田) スピード・パワートレーニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。 学習課題 学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。
第10回	コンディショニングの把握と指標 (山田) フィジカルコーチの立場からコンディショニングに関する知識を確認し、それらに関する研究論文や文献を読解することで、高度な専門知識を身につける。 学習課題 学びのキーワードについて参考文献等により下調べを行い、復習を行う。
第11回	文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得 1 (禰屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う (論文は担当教員が準備する) 学習課題 今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。
第12回	文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得 2 (禰屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う (大学院生が検索して選択した論文を用いる) 学習課題 今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。また、次の授業で用いる次の論文を検索して、選択しておくこと。
第13回	文献・研究論文の読解による高度な専門知識の習得 3 (禰屋) 運動生理学の観点から運動パフォーマンスを評価した論文を読み、自身の研究に必要な測定方法や解析方法の検討を行う (大学院生が検索して選択した論文を用いる) 学習課題 今回読んだ論文を再度確認して重要点をまとめておくこと。
第14回	文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用 (禰屋) 全3回の文献・研究論文読解および、時間外での読解によって得られた知見を自身の修士論文作成のための研究にどのように応用していくかを考察する。次のプレゼンテーション作成のための準備を行う 学習課題 次のプレゼンテーションの準備を行うこと
第15回	文献・研究論文の抄読による自身の研究への応用についてプレゼンテーション (禰屋) 前回準備したプレゼンテーションを実施し、今後の研究計画についての議論を行う。 学習課題 プレゼンテーション時に得られた提案等を今後の研究にどのように活用するか検討すること

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	レポート	50%	評価の基準 内容の妥当性と理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します
	課題のプレゼンテーション	50%	プレゼンテーションとディスカッションについて、スポーツ現場の課題と合目的理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

資料として、教員が準備する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】 トレーニング科学演習

【担当教員名】 佃 文子・榎屋 光男・山田 庸

【授業概要】

スポーツ生理学的・トレーニング科学的な修士論文を作成する上で必要な研究計画や研究方法について、国内・国外の文献を通して理解する。さらに、実践的な競技パフォーマンスやコンディショニングに関するデータの収集、分析と評価に参加することにより、医科学的データをスポーツフィールドへ還元するための実践力を身に付ける。

実際のデータの収集とフィードバックにあたっては、コーチングスタッフやアスリートへ医科学的データを有効にフィードバックするための具体的な方法についての検討も行う。

【到達目標】

【授業計画】 (授業外学修の目安の時間) …4時間

第1回	コンディショニングの評価法と研究計画の立案 (佃)
学習課題	これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの評価方法の検討を行う。 これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を予習する。また新たなコンディショニング評価方法についてまとめる
第2回	コンディショニングの評価法と実験方法の理解 (佃)
学習課題	これまでスポーツ現場で用いられてきた評価方法を整理し、新たなコンディショニング指標を探索する。主に文献検索や資料収集から、研究計画に用いるコンディショニングの実験方法の検討を行う。 新たなコンディショニング評価方法についてまとめる
第3回	過去に実施したコンディショニング評価法についてインタビューする (佃)
学習課題	スポーツフィールドに出向き、過去に使用されたコンディショニング評価法の測定評価を試みると共に、現場のトレーナー等にインタビューし、現場で求められる評価項目について抽出を図る。本講義以降に現場には複数回出向き、現場の信頼関係を構築した上で評価を実践する。 現場で実施された評価項目を抽出できるようにインタビューを準備する
第4回	現場で求められるコンディショニング課題についてインタビューする (佃)
学習課題	スポーツフィールドに出向き、過去に使用されたコンディショニング評価法の測定評価を試みると共に、現場のコーチやスポーツドクター等にインタビューし、現場で求められるトレーナーの役割と関与の具体的方法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第5回	現場におけるコンディショニング評価のプレゼンテーションと討議・まとめ (佃)
学習課題	評価方法の妥当性と、実際に行った評価の有効性についてプレゼンテーションを行い、討議を行う。また最終的な評価報告書を作成する。 現場にフィードバックするための資料を作成する
第6回	トレーニングに関する縦断的研究計画、実験方法の理解 (山田)
学習課題	トレーニング刺激を用いた介入を含む縦断的実験計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第7回	体カテストに関する研究計画、実験方法の理解 (山田)
学習課題	体カテストを用いた実験研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第8回	球技を対象とした運動やスポーツに関する実験方法の理解 (山田)
学習課題	球技を対象としたゲームパフォーマンス分析の研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第9回	他者評価を用いたスポーツ技能に関する実験方法の理解① (山田)
学習課題	他者評価を用いた個人のスポーツ技能に関する研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第10回	他者評価を用いたスポーツ技能に関する実験方法の理解② (山田)
学習課題	他者評価を用いた球技などの集団のスポーツ技能に関する研究計画の知識を習得し、関連研究論文や文献を読解するなかで、研究を進める上での研究計画の立案、実験方法を理解する。また、統計解析手法について理解する。 学びのキーワードについて参考文献や研究論文等で下調べを行い、復習を行う。
第11回	競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (榎屋)
学習課題	競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクス的側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (1回目) 授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。
第12回	競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (榎屋)
学習課題	競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクス的側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (2回目) 授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。
第13回	競技スポーツパフォーマンスの評価方法の理解 (榎屋)
学習課題	競技スポーツのパフォーマンス評価として生理学的あるいはバイオメカニクス的側面からの評価法に関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (3回目) 授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。
第14回	競技パフォーマンス向上のためのリカバリーやコンディショニングの実践方法の理解 (榎屋)
学習課題	競技パフォーマンス向上のためのリカバリーやコンディショニングに関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (1回目) 授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。
第15回	競技パフォーマンス向上のためのリカバリーやコンディショニングの実践方法の理解 (榎屋)
学習課題	競技パフォーマンス向上のためのリカバリーやコンディショニングに関する研究論文を抄読し、最新の知見を理解する (2回目) 授業で用いた論文を再度確認して、重要点をまとめておくこと。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	50%	評価の基準 課題レポート
プレゼンテーション	50%	内容の妥当性と、理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します。 内容の妥当性とわかりやすさについて、本学基準のルーブリックに基づいて評価します。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

資料として、教員が準備する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】 コーチング特論

【担当教員名】 渋谷 俊浩・吉川 文人・林 弘典・北村 哲

専
門
科
目

【授業概要】
 我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務とされている。本授業では集団・個人競技におけるコーチ・コーチングに関する研究内容や方法について理解するとともに、それぞれの競技力向上に関する理論と知識を獲得する。

【到達目標】
 ①アスリート個々の発育発達・チームの目標・競技レベルに応じた適切なコーチングが実践できるようになる。
 ②勝つためのコーチングを実践できるようになる。

【授業計画】		【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間
第1回	課題と目標の理解 (渋谷俊浩)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論を学修する。 先行研究・参考文献の要約集を作成する。 	
第2回	コーチング計画の実際：コーチング計画を立案するために必要な基礎理論の理解 (渋谷俊浩)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。 実践結果をノートにまとめ、国内外のアスリート育成プログラムについて調べる。 次回の発表に必要な根拠資料等を準備する。 	
第3回	コーチング計画の検討・立案 (渋谷俊浩)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題および目標を確認し、先行研究・参考文献等を探索する。 アスリートの競技力向上を目指し、競技力の構成要素とコーチ・コーチングに関する基礎的な理論と知識を活用しながら、スポーツ現場でのコーチングの実践を通して、本学独自のアスリート育成プログラムを立案する。 実践結果をノートにまとめ、国内外のアスリート育成プログラムと比較検討する。 	
第4回	プレゼンテーション：コーチング計画の発表 (渋谷俊浩)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ現場で実践するコーチング計画書を発表し、そのコーチングの意義・有効性などについてディスカッションする。 ディスカッションで受けたアドバイス・意見をふまえてコーチング計画を策定し、実践する。 	
第5回	情報通信技術の応用例とコーチング (吉川文人)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された情報通信技術とその応用例について概観し、センサー技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。 情報通信技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 	
第6回	動作分析技術の応用例とコーチング (吉川文人)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ競技の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用例について概観し、その動作分析技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。 動作分析技術の開発事例や応用例の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 	
第7回	ゲーム&パフォーマンス分析事例とコーチング (吉川文人)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム及びパフォーマンス分析研究について概観し、パフォーマンス指標にかかるデータの処理方法について学びを深める。コーチングにおける付加的情報の活用方法について議論する。 ゲーム及びパフォーマンス分析研究の文献調査を行ない、関心のあるスポーツ競技のパフォーマンス指標とそのデータの処理方法についてまとめる。 	
第8回	コーチングの評価・改善過程 (吉川文人)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> コーチングの評価・改善プロセスにおいて実行される具体的なコーチング行動について、実践的な事例報告や研究論文から得られた知見を概観するとともに、コーチングの評価・改善過程に関する問題点を把握し、新たな課題・改善点を抽出する。 関心のあるスポーツ競技のコーチングの評価・改善プロセスについて自らの考えをまとめる。 	
第9回	コーチング(人間)の本質(1)について (林 弘典)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 「ショーシャンクの空に (前編90分)」の視聴し、コーチングの本質(人間)について考える。 「ショーシャンクの空に」について調べる。 	
第10回	コーチング(人間)の本質(2)について (林 弘典)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 「ショーシャンクの空に (前編52分)」の視聴し、コーチングの本質(人間)についてレポート作成する。 コーチング(人間)の本質について考えをまとめる。 	
第11回	コーチング(人間)の本質(3)について (林 弘典)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 「ショーシャンクの空に」を視聴して作成したコーチングの本質(人間)に関するレポート発表する。また、コーチングの本質(人間)について議論する。更生(反省)する本当の意味について学習する。 「ショーシャンクの空に」を再視聴する。更生(反省)する本当の意味を考える。 	
第12回	コーチング(人間)の本質(4)について (林 弘典)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> かんさい熱視線「極めて なお磨く—剣道八段・最高峰の戦い—」を視聴し、自分と向き合うという意味について学習する。 自分と向き合うという意味について考える。 	
第13回	選手への言葉のかけ方 (北村哲)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 選手への動機付けについて、多くの事例を参考にしながら、言葉のかけ方の狙いや効果について整理する。 普段のコーチング活動における発話について記録する。 	
第14回	選手の自発性を促すコーチング (北村哲)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 昨日目標とされる自律・自立し、主体的に行動する選手を育成するためのコーチングについて議論する。 普段のコーチング現場や過去の選手時代を振り返り自発性を生み出すポイントについて整理する。 	
第15回	コーチングにおけるダブルゴールについて (北村哲)	
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 昨日コーチングの目標とうたわれる、①人間性の育成および②競技能力の向上といったダブルゴールを目標としたコーチングについて議論し、指導者の立場から理想的なアスリートのキャリアについて考える。 ダブルゴールについて調査し、予め理解するとともに普段のコーチング活動について振り返る。 	

<p>【課題や取組に対する評価・振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習や実技に対して個別にコメントします 実技・実習後、全体に向けてコメントします 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします 	<p>【成績評価】</p> <p>注意事項等 4つのセクションの課題それぞれに、積極的に取り組んでください。</p> <p>成績評価の方法・評価の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>評価の基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題①</td> <td>25% : 第1回から第4回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。</td> </tr> <tr> <td>課題②</td> <td>25% : 第5回から第8回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。</td> </tr> <tr> <td>課題③</td> <td>25% : 第9回から第12回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。</td> </tr> <tr> <td>課題④</td> <td>25% : 第13回から第15回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて5段階で評価する(25点)。</td> </tr> </tbody> </table>	課題	評価の基準	課題①	25% : 第1回から第4回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。	課題②	25% : 第5回から第8回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。	課題③	25% : 第9回から第12回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。	課題④	25% : 第13回から第15回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて5段階で評価する(25点)。
課題	評価の基準										
課題①	25% : 第1回から第4回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。										
課題②	25% : 第5回から第8回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。										
課題③	25% : 第9回から第12回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点)。										
課題④	25% : 第13回から第15回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて5段階で評価する(25点)。										
<p>【使用教科書】 特に指定しない</p>	<p>【参考文献等】</p> <ol style="list-style-type: none"> スポーツ学のすすめ：びわこ成蹊スポーツ大学編(大修館書店) 競技力向上のトレーニング戦略：テューダー・ボンバ、尾縣貢・青山清英監訳(大修館書店) スポーツの戦術入門：ヤーン・ケルン、朝岡正雄・水上一・中川昭監訳(大修館書店) スポーツ・コーチ学：嶋田出雲(不昧堂) 「ショーシャンクの空に」(DVD) 										
<p>【履修上の注意・備考・メッセージ】 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものです。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みてください。参考：向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」</p>											

【授業科目名】 コーチング演習

【担当教員名】 渋谷 俊浩・吉川 文人・林 弘典・北村 哲

【授業概要】

我国の国際競技力を向上させるためには、競技の普及、アスリートの強化・育成はもとより、優れたコーチの養成が急務である。本授業では、コーチングに関連する課題や問題を概観するとともに、それらに関する研究の内容や方法を理解するとともに、アスリート個々および競技の特性を踏まえたコーチングとその実践例についても理解を深める。

【到達目標】

- ①各自の課題を設定し、コーチング計画を立案できるようになる。
②コーチングのプロセス(実践⇒改善点抽出⇒修正⇒実践)を経て、自身のスキルを向上させることができる。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 …4時間

第1回	コーチング学研究の概観(吉川文人) ・授業の進め方について把握する。 ・一般的なコーチングの役割や行動を踏まえ、コーチング学と関連の深い学問体系について概観する。 ・コーチング学の研究動向を概観し、コーチングにおける課題や問題点について議論する。 ・コーチング特論において取り上げられた諸種の知見を活用しながら、アスリートの競技力向上に資する研究とは何かを議論する。
学習課題	コーチングに関連する概念をテーマとしてマインドマップを作成する。
第2回	スポーツ科学研究の概観(吉川文人) ・コーチングに資するスポーツ科学の細分野を概観し、それぞれの細分野の関連性について議論する。
学習課題	関心のあるスポーツ競技の科学的知見をテーマにマインドマップを作成する。
第3回	コーチング事例研究の概観(吉川文人) ・コーチングに関連した研究活動事例について概観し、その中で取り扱われている問題点や課題について議論する。
学習課題	関心のあるスポーツ競技におけるコーチングの事例研究について文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。
第4回	ビッグデータのコーチング応用(吉川文人) ・ビッグデータを取り扱う情報通信技術や情報処理技術を概観し、コーチング及びコーチング学の展望について議論する。
学習課題	ビッグデータを活用できることを前提としたコーチングの将来像について自らの考えをまとめる。
第5回	コーチングに必要な論理的な思考力の向上(1)について(林 弘典) 研究における目的と方法を明確にすることの重要性を理解し、コーチングに必要な論理的な思考力を向上させる。
学習課題	研究(科学論文)とは何かについて調べる。
第6回	コーチングに必要な論理的な思考力の向上(2)について(林 弘典) 卒業研究の読み返し、目的と方法が明確であるかどうかを検証し、コーチングに必要な論理的な思考力を向上させる。
学習課題	卒業研究のコピーを林に提出し、自身でも読み返す。
第7回	コーチングに必要な論理的な思考力の向上(3)について(林 弘典) 修士論文の研究計画書における目的と方法の明確さについて検討し、コーチングに必要な論理的な思考力を向上させる。
学習課題	修士論文の研究計画書のコピーを林に提出し、自身でも読み返す。
第8回	コーチングに必要な論理的な思考力の向上(4)について(林 弘典) 修士論文の研究計画書における明確な目的と方法を再検討し、コーチングに必要な論理的な思考力を向上させる。
学習課題	第5回～第7回までの授業を振り返り、修士論文の研究計画書を練り直す。
第9回	個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について①(北村 哲) ・個人競技種目(アマチュア、オリンピックスポーツ)のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。
学習課題	日々のコーチング活動について記録および省察する。
第10回	個人競技種目のコーチング トップコーチのコーチング事例について②(北村 哲) ・個人競技種目(プロスポーツ)のトップコーチのコーチング事例を題材に、コーチングのエッセンスについてディスカッションすることで、コーチングにおける実践的知見を学ぶ。
学習課題	日々のコーチング活動について授業内容と比較しながら省察する。
第11回	コーチング活動の省察①(北村 哲) ・日々のコーチング活動の記録を元に、自身のコーチングについて省察する。また、第9回、10回の講義内容を踏まえながら各受講生のコーチング行動の良い点、現在抱えている難しさ等についてディスカッションを行う。その中で自身の指導の改善点等を見出し、実践的スキルの向上を図る。
学習課題	これまでの授業内容を活用し、日々のコーチング活動について記録の仕方について工夫し、省察する。
第12回	コーチング活動の省察②(北村 哲) ・第11回の講義で得られた知見を実践した結果について、ディスカッションを行う。省察およびディスカッションのようなコーチング活動の評価が自身のコーチング行動にどのような変容を及ぼすかを議論することで、PDCAサイクルの実践やコーチング行動の省察の重要性に学ぶ。
学習課題	日々のコーチング活動について理想的な記録の仕方および省察の仕方を実践する。
第13回	コーチング計画の立案(渋谷俊浩) ・コーチングに関する各自の課題についての研究成果を取りまとめ、コーチング計画を検討する。On the job trainingを通して、実践力を培う。
学習課題	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成する。
第14回	コーチングの実践(渋谷俊浩) ・各自のコーチングについて、修正・改善を含めてさらに検討を加え、より適切なコーチングに取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。
学習課題	計画に沿ってコーチングを実践し、コーチング日誌を作成し、発表の準備をする。
第15回	まとめ(渋谷俊浩) ・各自のコーチングの実践結果をまとめ、コーチングの実践について理解した内容を発表する。 ・レポートや根拠資料等に基づき、今回実践したコーチングを評価する。また、第1学年で学習した内容をふまえ、次年度の修士論文(あるいは課題研究)についてのビジョンを持つ。 ・アスリートの競技力向上に寄与する優れたコーチングについてディスカッションする。
学習課題	教員や他者からのアドバイス・意見をふまえ、自身のコーチングポリシーを確立する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

【成績評価】

注意事項等	4つのセクションそれぞれの課題に、積極的に取り組んでください。
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
レポート評価及びプレゼンテーション評価	25% : 第1回から第4回の授業内容の理解度に関する課題(レポート及びプレゼンテーション)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点満点)。
レポート評価	25% : 第5回から第8回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点満点)。
レポート評価	25% : 第9回から第12回の授業内容の理解度に関する課題(レポート等)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点満点)。
レポート及びプレゼンテーション評価	25% : プ第13回から第15回の授業内容の理解度に関する課題(レポート及びプレゼンテーション)を本学のルーブリックに基づいて評価する(25点満点)。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

- 身体活動科学における研究方法: ジェリー・トーマス、ジャック・ネルソン、田中喜代次・西嶋尚彦監訳(NAP Limited)
- 健康・スポーツ科学のための研究方法: 出村慎一(杏林書院)
- 研究のテーマまたは専門種目などに応じて、その都度紹介する。(各競技団体テクニカルレポート等)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。コーチングの理論は実践してこそ意味のあるものです。各セクションで学修した理論を自分の心身をもって理解し、スポーツ現場での実践を試みてください。参考: 向上のプロセス「知る」⇒「わかる」⇒「できる」

【授業概要】

スポーツに関する栄養学・生化学・生理学の知識を基に、コンディショニングに不可欠な食事および栄養面からのアプローチの理論と実践について修得することを目的とする。本特論では、国内・国外の最新のスポーツ栄養に関する文献を用い、専門知識および研究方法を学ぶとともに、スポーツ現場での実践のための課題を探る。

【到達目標】

・スポーツの現場において起こりうる栄養学的観点からの課題を理解し、その解決のための知識を習得する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4時間

第1回	スポーツ栄養に関する研究についての概説 最近の研究成果について紹介しながら学習課題や到達目標を提示し、この授業での達成目標を確認する。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第2回	アスリートにおける栄養問題に関する知見紹介・ディスカッション (1回目) 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にする。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第3回	アスリートにおける栄養問題に関する知見紹介・ディスカッション (2回目) 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にする。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第4回	アスリートにおける栄養問題に関する知見紹介・ディスカッション (3回目) 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にする。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第5回	アスリートにおける栄養問題に関する知見紹介・ディスカッション (4回目) 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にする。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第6回	アスリートにおける栄養問題に関する知見紹介・ディスカッション (5回目) 各専門競技における栄養学的な問題・解決すべき課題を明確にする。
学習課題	各専門競技におけるスポーツ栄養に関する情報検索
第7回	アスリートとしての食事管理の実践 (1回目) 各自問題視したテーマに関する食事計画を立案する。
学習課題	テーマに関する予習をしておく。
第8回	アスリートとしての食事管理の実践 (2回目) 食事計画を評価する方法 (栄養価計算) について解説する。
学習課題	栄養価計算についての知識を復習する。
第9回	アスリートとしての食事管理の実践 (3回目) 栄養価計算を実践する。
学習課題	各自立案した食事計画について再評価する。
第10回	アスリートとしての食事管理の実践 (4回目) 立案した食事計画を実践 (調理実習) する。
学習課題	調理実習のための予習をしておく。
第11回	アスリートとしての食事管理の実践 (5回目) 立案した食事計画を実践 (調理実習) する。
学習課題	調理実習のための予習をしておく。
第12回	アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読・ディスカッション (1回目) アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学び考察する。
学習課題	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。
第13回	アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読・ディスカッション (2回目) アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学び考察する。
学習課題	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。
第14回	アスリートにおける栄養問題に関する論文抄読・ディスカッション (3回目) アスリートの栄養に関する課題に対する研究手法について学び考察する。
学習課題	発表資料を準備し、紹介されたキーワードについて復習する。
第15回	まとめ 本特論により明確になったスポーツ界におけるスポーツ栄養学的観点からの課題を解決するためには、どのような科学的根拠が必要とされるかを議論し、まとめとする。
学習課題	これまでの授業内容を復習し、レポートを作成する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	40%	評価の基準
課題の取り組み状況	40%	課題の理解、適切な情報処理、文献整理について評価する
課題プレゼンテーション	40%	論理的な説明、分かりやすさについて評価する
レポート	20%	栄養学的観点から課題を理解し、論理的な思考に基づいて独自の考察を含んだレポートが作成できるかについて評価する

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】スポーツ栄養演習

【担当教員名】武田 哲子

【授業概要】

修士論文の作成に必要な仮説の設定のための論理的思考をトレーニングするために、スポーツ現場における栄養に関する課題の設定を行い、文献調査およびディスカッションを通して研究計画を立て遂行する力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・課題を論理的に整理し、仮説設定することができる。
- ・研究遂行に必要な生化学、生理学実験による評価法を理解する。
- ・スポーツ栄養学研究に用いる研究手法を習得する。
- ・自ら仮説を立て、修士論文のための予備的研究に発展する研究計画を作成し、実践する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	スポーツ栄養の研究および実践についての概説 本授業の到達目標を理解し、課題を設定する。 スポーツ栄養の現状について知見を調査しておく。
学習課題	
第2回	課題の整理 スポーツ現場における栄養に関する課題の整理を行い、本授業で扱うテーマを設定する。 スポーツ栄養の現状について知見を調査しておく。
学習課題	
第3回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (1回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第4回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (2回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第5回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (3回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第6回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (4回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第7回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (5回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第8回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (6回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第9回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (7回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第10回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (8回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第11回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (9回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第12回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (10回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第13回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (11回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第14回	各テーマに関する知見の紹介、ディスカッション (12回目) 文献紹介、ディスカッションを通して知見を深める。 文献発表の準備を行う。また、発表されたテーマについて復習する。
学習課題	
第15回	授業のまとめ スポーツ現場における栄養に関する課題の整理を改めて行い、本授業で扱ったテーマについて現状を評価する。 最終レポートを作成する。
学習課題	

【課題や取組に対する評価・振り返り】

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	40%	評価の基準
課題の取り組み状況	40%	課題の理解、適切な情報処理および文献検索ができてきているかを評価する
課題発表	40%	論理的な説明、分かりやすさについて評価する。
レポート	20%	課題に対して論理的に説明し、独自の考察を踏まえた文章が作成できているかを評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

適宜紹介する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

【授業概要】

本授業では、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究方法を概観し、国内外における研究動向を把握する。毎回の授業では、各自が熟読した文献について発表資料をまとめ、プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。それは、今後の研究活動に寄与するような文献研究として位置付けられる。

【到達目標】

- 1) スポーツ心理学領域における国内外の最新の研究トピックと研究方法を熟知する
- 2) 文献研究としての資料作りができる
- 3) 発表資料を丁寧に説明し、分かりやすく発表できる

【授業計画】 【授業外学習の目安の時間】…4時間

第1回	オリエンテーション：本授業の目標とスケジュールの説明 ・段階的な学習目標を説明し、参考図書や参考文献を紹介し、グループ学習のグループ編成する。 ・スポーツ心理学の軌跡と今後の展望を行う。
学習課題	また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、予習しておく。
第2回	スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究方法を概観し、国内外における研究動向を把握する ・先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第3回	運動学習理論の概観と今後の展望 ・スポーツスキルの獲得メカニズムについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第4回	効果的な運動学習の方法 ・反復練習の工夫とその効果、全習法と分習法（効果的な練習メニューの立て方）、・ピグマリオン効果の実際などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第5回	あがりの症候とその対策 ・あがりの発生機序の質的検討やあがりに対する心理学的対処法などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第6回	怪我への心理的アプローチ ・スポーツ傷害に伴う選手の心理的問題の同定、スポーツ傷害発症から現場復帰へのプロセスに見られる心理変容、スポーツ傷害への心理的サポートなどについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第7回	バーンアウト症候群への介入 ・スポーツ領域におけるバーンアウトの実態、バーンアウトの発生機序、バーンアウトへの対処方略などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第8回	目標設定と動機づけ ・目標設定の方法と動機づけの関係、効果的な目標設定の方法とその評価などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第9回	スポーツメンタルトレーニング ・スポーツメンタルトレーニングの歴史と理論的基礎、心理スキルトレーニング、スポーツフィールドでのスポーツメンタルトレーニングの効果などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第10回	運動好きと運動嫌い ・運動を好きにさせる指導、運動嫌いを生み出すメカニズム、運動嫌いをなくすための心理的介入などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第11回	スポーツキャリア ・スポーツキャリアパターン、アスリートのキャリアアトラクション問題、離脱やトランスファーなどの社会的問題などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第12回	運動とこころの健康 ・健康実践に向けた運動介入に関わる心理的問題、運動の心理的効果、バリアフリー社会に向けての心理学的介入などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第13回	スポーツ領域における質的アプローチ ・スポーツカウンセリング研究、スポーツシーンにおける臨床的理解などについての先行研究の概観（資料収集の仕方、まとめ方、報告書の書き方など）する。 ・質疑応答を受け、適切に回答する。
学習課題	授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、スポーツ心理学分野における最新の研究トピックと研究論文を検索し、熟読し、資料作成しておく。
第14回	プレゼンテーション ・本授業で学習したことをまとめ、発表する（個別）。 ・スポーツフィールドをより良く変えるための提案を行う。
学習課題	これまでの授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、発表資料を作成し、発表する準備を行う。
第15回	まとめ ・本授業のまとめを行う。 ・最終課題の解説を行う。 ・本授業の成果を今後に生かすためにはどうすればいいのか考える。
学習課題	これまでの授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておく。また、発表資料を作成し、発表する準備を行う。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実習や実技に対して個別にコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	発表資料	50%	評価の基準
	プレゼンテーション	50%	発表資料を評価する。1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができていないか。
			毎回の授業で、発表資料を活用したプレゼンテーションを行い、これを評価する。1) 発表資料をわかりやすく発表できているか、2) 質疑応答に適切に対応できているか。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

生涯スポーツの心理学（福村出版）、よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ出版）、スポーツ心理学 その軌跡と展望（大修館書店）、ジュニアスポーツの心理学（大修館書店）、スポーツ心理学ハンドブック（実務教育出版）、スポーツ心理学大事典（西村書店）その他、必要に応じて、資料・文献等を配布する。

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であることから、毎回、「授業外学習課題」として、スポーツ心理学領域における国内外の最新の研究トピックと研究方法を熟知することを目指し、平均すると毎回4時間以上の授業外学習が求められる。従って、毎回の授業に備えて、予めスポーツ心理学領域における国内外の最新の研究論文を熟読し、これについてのレジュメを作成し、発表する準備を行う。

【授業科目名】スポーツ心理演習

【担当教員名】豊田 則成

【授業概要】

本授業は、様々なスポーツフィールドに混在する様々な心理的問題を同定し、それに対する有効で有益な心理学的介入方略を検討するための能力を育成する。また、そのための基礎的研究能力の向上を目指す。

【到達目標】

メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な取り組みについて最新の研究トピックや研究方法に触れ、スポーツフィールドに対する有効で有益な心理学的介入方略を実践する基礎的能力を養う。すなわち、スポーツフィールドにおける心理的問題を同定し、これを改善することのできる実践力の獲得を目指す。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】…4時間

第1回	オリエンテーション 本授業の目標とスケジュールの説明 ・段階的な学習目標の説明、参考図書や参考文献の紹介、グループ学習のグループ編成する。 ・スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの軌跡と今後の展望をおこなう。 学習課題 予め関連図書等を熟読し、予習しておくことと良い。
第2回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第3回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第4回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第5回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第6回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第7回	スポーツメンタルトレーニングの理論と指導法 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの理論的基礎を理解する。 ・心理スキルトレーニングの計画的実施する。 ・心理的介入の成果の評価を実施する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツメンタルトレーニングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。加えて、プレゼンテーションの準備をしておく。
第8回	プレゼンテーション① ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツメンタルトレーニングの実践報告を行う。 ・メンタルトレーニング効果の検証および議論する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第9回	スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例提示と討議をする。 ・カウンセリング介入の成果の評価を行う。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第10回	スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例提示と討議をする。 ・カウンセリング介入の成果の評価を行う。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第11回	スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例提示と討議をする。 ・カウンセリング介入の成果の評価を行う。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第12回	スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例提示と討議をする。 ・カウンセリング介入の成果の評価を行う。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第13回	スポーツカウンセリングの理論と介入事例 ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・スポーツカウンセリングの理論的基礎を理解する。 ・事例提示と討議をする。 ・カウンセリング介入の成果の評価を行う。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。加えて、プレゼンテーションの準備をしておく。
第14回	プレゼンテーション② ・標記に関連する先行研究や文献を熟読し、レジュメを作成し、発表する。 ・事例検討する。 ・スポーツへのカウンセリングマインドの導入についてを理解する。 学習課題 授業の内容を踏まえ、ノートにまとめておくことと良い。また、スポーツカウンセリングに関連する先行研究を選定し、予習しておくことと良い。
第15回	まとめ ・本授業のまとめを行う。 ・最終課題の解説を行う。 ・本授業の成果を今後の研究活動に生かすためにはどうすればよいか考える。 学習課題 全授業の内容を振り返り、ノートにまとめておくことと良い。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実習や実技に対して個別にコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合

発表資料	50%	評価の基準 毎回の授業で発表資料を作成し、これを評価する。 1) 選定した論文の内容を的確に発表資料に反映しているか、2) 小項目を立て、分かりやすい資料作成ができているか。
プレゼンテーション	50%	評価の基準 毎回の授業で資料を発表し、これを評価する。 1) 発表資料をわかりやすく発表できているか、2) 質疑応答に適切に対応できているか。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

スポーツメンタルトレーニング (大修館書店) および 臨床スポーツ心理学 (道和書院)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であることから、毎回、「授業外学修課題」として、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な取り組みについて最新の研究トピックや研究方法を熟知することを目指し、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。従って、毎回の授業に備えて、予めメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの先駆的な国内外の最新の研究論文および文献などを熟読し、これについてのレジュメを作成し、発表する準備を行う。

【授業概要】

本講義では、スポーツバイオメカニクスの基礎を学ぶ。スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学や数学の基礎を学び、その基礎を元に並進運動および回転運動のキネマティクスとキネティクス、仕事、エネルギー、パワーなどについて学習する。

【到達目標】

1. スポーツバイオメカニクスの学習に必要な力学と数学の基礎を理解する。
2. 並進運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
3. 回転運動のキネマティクス、キネティクスについて理解する。
4. 仕事、エネルギー、パワーについて理解する。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 … 4 時間

第1回	スポーツバイオメカニクス序説 バイオメカニクスとはどのような学問か、どのように派生してきたか、どのような目的をもつ学問か、概略を理解する。 教科書p.1-16を読み、バイオメカニクスの概略について復習する。合わせて、教科書p.18-26を読み、力学と数学の基礎について予習する。
第2回	力学と数学の基礎1：力学の基礎、ベクトル演算 力学の基礎と、ベクトル演算のうち加算・減算について理解する。 学習課題 力学と数学の基礎について復習する。合わせて、教科書p.27-40を読み、ベクトル演算と微分・積分について予習する。
第3回	力学と数学の基礎2：ベクトル演算と微分・積分 ベクトル演算のうち、ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について理解する。 学習課題 ベクトルの積、三角関数、行列演算、微分と積分について復習する。合わせて、教科書p.42-53を読み、並進運動の位置、速度、加速度について予習する。
第4回	並進運動のキネマティクス1：位置、速度、加速度 並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について理解する。 学習課題 並進運動のキネマティクスのうち、位置、速度、加速度について復習する。合わせて、教科書p.54-61を読み、力、等速度・等加速度運動、放物運動などについて予習する。
第5回	並進運動のキネマティクス2：力、等速度・等加速度運動、放物運動 並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について理解する。 学習課題 並進運動のキネマティクスのうち、力、等速度・等加速度運動、放物運動について復習する。合わせて、教科書p.64-73を読み、回転運動のうち角度、角速度、角加速度などについて予習する。
第6回	回転運動のキネマティクス1：角度、角速度、角加速度 回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度、角加速度について理解する。 学習課題 回転運動のキネマティクスのうち、角度、角速度、角加速度について復習する。合わせて、教科書p.74-84を読み、回転運動のうちモーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動などについて予習する。
第7回	回転運動のキネマティクス2：モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動 回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について理解する。 学習課題 回転運動のキネマティクスのうち、モーメント、角速度と速度、等速円運動・等角加速度運動について復習する。合わせて、教科書p.86-100を読み、力、運動の三法則、いろいろな力などについて予習する。
第8回	並進運動のキネティクス1：力、運動の三法則、いろいろな力 並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について理解する。 学習課題 並進運動のキネティクスのうち、力、運動の三法則、いろいろな力について復習する。合わせて、教科書p.101-116を読み、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式などについて予習する。
第9回	並進運動のキネティクス2：運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式 並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について理解する。 学習課題 並進運動のキネティクスのうち、運動量と力積、フリーボディダイアグラム、運動方程式について復習する。合わせて、教科書p.118-133を読み、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心などについて予習する。
第10回	回転運動のキネティクス1：力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心 回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について理解する。 学習課題 回転運動のキネティクスのうち、力のモーメント、釣り合い、てこの原理、重心について復習する。合わせて、教科書p.134-152を読み、回転運動における慣性量、運動の三法則などについて予習する。
第11回	回転運動のキネティクス2：慣性量、運動の三法則 回転運動のキネティクスのうち、慣性量、運動の三法則について理解する。 学習課題 回転運動における慣性量、運動の三法則について復習する。合わせて、教科書p.154-168を読み、仕事、力学的エネルギーなどについて予習する。
第12回	仕事、エネルギー、パワー 1：仕事、力学的エネルギー 仕事、力学的エネルギーについて理解する。 学習課題 仕事、力学的エネルギーについて復習する。合わせて、教科書p.169-178を読み、パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換などについて予習する。
第13回	仕事、エネルギー、パワー 2：パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換 パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について理解する。 学習課題 パワー、仕事・力学的エネルギー・パワーの関係、エネルギーの変換について復習する。合わせて、教科書p.180-188を読み、流体力について予習する。
第14回	流体力 流体力について理解する。 学習課題 流体力について復習する。合わせて、教科書p.190-209を読み、筋収縮の力学について予習する。
第15回	筋収縮の力学 筋収縮の力学について理解する。 学習課題 筋収縮の力学について復習する。また、教科書を全て見直し、これまでに学んだ内容について復習する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	30%	評価の基準
授業への参加度	70%	毎回の授業に対する予習、復習、議論への参加度について評価する。
内容の理解度		ディスカッションの内容や単元ごとの小テストの成績から、それぞれの単元についての理解度を評価する。

【使用教科書】

指定する
著者タイトル出版年
宮西智久、藤井範久、岡田英孝・初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス・化学同人・2016年

【参考文献等】

The Biomechanics of Sports Techniques, 4th edition (James G. Hay, Prentice Hall)
スポーツバイオメカニクス20講 (阿江通良、藤井範久)
スポーツバイオメカニクス (深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

【授業科目名】 スポーツバイオメカニクス演習

【担当教員名】 高橋 佳三

【授業概要】

スポーツバイオメカニクスの研究に欠かせないのは、様々な分析を可能にする研究機材である。高速度VTRカメラ、筋電図計、地面反力計などをを用いたデータの収集方法について講義を行い、さらに得られたデータを分析するためのプログラミングの方法を習得する。

【到達目標】

一人で実験からデータ分析までを行うための素養を身につける。また、最新の知見を得るために国内・海外の論文を読む論文読解力を身につけ、情報の収集から発信まで、研究者として必要とされる素養を養う。

【授業計画】 【授業外学修の目安の時間】 …4時間

第1回	バイオメカニクスの研究の手順 バイオメカニクスの研究に使用される機材や研究方法などについて概説する。 次週の映像撮影に向け、必要機材の準備を行う。また実験試技を考え、それに関する研究論文を検索し、まとめておく。
第2回	実験方法 (1) 2次元画像撮影、地面反力の計測 2次元画像分析のための映像撮影法を習得する (パンニング撮影含む)。 地面反力の計測方法を習得する。 撮影した映像をデジタイズの作業が行えるように変換しておく。次週の3次元撮影で撮影する実験試技を考え、その撮影法を計画しておく。
第3回	実験方法 (2) 3次元画像撮影、筋電図の計測 3次元画像分析のための映像撮影法を習得する。 筋電図の計測方法を習得する。 撮影した映像をデジタイズの作業が行えるように変換しておく。
第4回	データ分析 (1) デジタイズ 2次元および3次元のデジタイズの方法を習得する。 次週までに2次元画像のデジタイズを終えておく。
第5回	データ分析 (2) 2次元実長換算 2次元実長換算の方法を習得し、プログラム内容を確認する。 実長換算の計算方法を復習する。翌週までに3次元のデジタイズを終えておく。
第6回	データ分析 (3) DLT法 DLT法の方法を習得し、プログラム内容を確認する。 DLTの計算方法について復習する。翌週の平滑化に備え、参考書などを読む。
第7回	データ分析 (4) 平滑化 平滑化の方法を習得し、プログラム内容を確認する。 平滑化の内容について復習する。翌週までに全てのデータの平滑化を終えておく。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、微分法について予習しておく。
第8回	データ分析 (5) 速度算出 速度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。 全てのデータの速度を算出する。高校数学やバイオメカニクスの参考書を読み、三角関数について予習しておく。
第9回	データ分析 (6) 角度・角速度算出 角度算出の方法を習得し、プログラム内容を確認する。 特に2次元と3次元の角度の違いについて認識する。 角度の算出方法について復習する。地面反力を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。
第10回	データ分析 (7) 地面反力の処理 地面反力データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。 地面反力について復習する。筋電図を計測した論文を検索し、内容をまとめておく。
第11回	データ分析 (8) 筋電図の処理 筋電図データの処理方法を習得し、プログラム内容を確認する。 筋電図の内容について復習する。これまで算出したデータをまとめ、項目毎にまとめておく。
第12回	考察 (1) 統計処理 算出したデータをまとめ、比較し、統計処理などを行う。特にt検定、分散分析、相関係数などの基礎統計量について理解する。 様々な観点から算出したデータを並べ替えて考察しておく。
第13回	考察 (2) 考察の進め方 統計処理を行った結果から、考察を行い、論文のフォーマットに準じて文章かできるようにする。 考察を論文のフォーマットに準じて文章化する。
第14回	プレゼンテーション (1) プレゼンテーションの作り方、発表の仕方 プレゼンテーションのための資料作成法や注意点等を習得する。 PowerPointを用いてプレゼンテーションを作成し、翌週の発表の準備をする。
第15回	プレゼンテーション (2) 発表 プレゼンテーションを行い、受講生同士でディスカッションを行う。 発表とディスカッションの内容から論文を修正し、提出する。

【課題や取組に対する評価・振り返り】

・実習や実技に対して個別にコメントします

【成績評価】

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への参加度	40% : 実験やデータ分析などへの参加度を評価する。
理解度	60% : 研究計画書、実験内容、データなどを総合的に評価する。

【使用教科書】

特に指定しない

【参考文献等】

初めて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス (宮西智久 編、藤井範久 著、岡田英孝 著、化学同人、2016)

【履修上の注意・備考・メッセージ】

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。